



創立120周年

東京歯科大学広報

理事長就任のご挨拶

熱田 俊之助



就任のご挨拶の前に、去る6月22日にご逝去されました、故井上 裕前理事長のご冥福をお祈り申し上げますとともに、長年に渡るご功績に対しまして深甚なる敬意を捧げたいと思います。

この度、井上前理事長の後を受けて、8月28日に開催された理事会においてご選任を賜り、同日付で学校法人東京歯科大学の第六代目の理事長に就任いたしました。

本学は、百十有余年の伝統を誇る本邦最古の歯科医学教育機関として、日本の歯科界をリードし、発展に寄与してまいりました。

2年後の平成22年に創立120周年という節目の年を迎えます。この節目に、理事長職を拝命し

たことは、大きな喜びであると同時に、大きな責任であることを痛感いたしております。

幸い本法人には、豊富な経験と学識英知を有する役員の皆様と優秀な教授陣をはじめとする教職員が多くおります。諸問題解決のために全学を挙げてご協力頂けます様お願い申し上げます。

皆様ご承知のように、歯科医師需給問題、歯学部定員の削減要請、歯科医師国家試験の合格基準引き上げ等、国の政策として明確化されました。

この様な状況の下、本学が更なる発展をするためには、故井上前理事長の路線を継承していくことが重要であると考えます。私自身、昭和24年東京歯科医学専門学校を卒業し、昭和63年4月から本法人評議員、平成5年10月からは理事として学校法人の経営に携わり、井上先生と共に歩んで参りました。

私の任期中は、血脇守之助先生の「歯科医師である前に人間たれ」という建学の精神の堅持、創立120周年記念事業の推進、財政基盤の確立、維持を基本方針として鋭意努力してまいります。井上先生が提唱されておりました大学の社会的責任についての取り組み、法人運営の透明性の充実、大学情報の開示と説明責任についても重要な事柄であります。また、現在検討が進められている水道橋キャンパスへの移転計画も、基本方針を前提とした上で、議論を重ねてまいる所存であります。

最後に、教職員各位のご支援とご協力をお願いして、理事長就任の挨拶と致します。

2008年 8・9月

232号

本号の主な内容

- ・理事長就任のご挨拶
- ・平成20年科学研究費補助金決定
- ・第40回全日本歯科学生総合体育大会
- ・平成21年度東京歯科大学入学試験要項

■ 熱田俊之助常務理事が理事長に就任

井上 裕前理事長の逝去に伴い、平成20年8月28日（木）に開催された第651回理事会において熱田俊之助常務理事が理事長に選任された。

熱田理事長の略歴

あつたしゆんのすけ
熱田俊之助

大正15年3月26日生

学 歴

- 昭和24年 3月 東京歯科医学専門学校卒業
- 昭和24年 6月 歯科医師国家試験合格
- 昭和24年10月 歯科医籍登録 第39568号
- 昭和36年 3月 順天堂医科大学より医学博士の学位授与

職 歴

- 昭和24年 4月 東京女子医科大口腔外科 (25年3月まで)
- 昭和27年 3月 熱田歯科医院開設
- 昭和41年12月 保護司 (平成16年12月迄)
- 昭和42年 6月 都社会保険支払基金審査委員 (46年3月まで)
- 昭和47年 1月 東京歯科大学同窓会常任理事 (56年3月まで)
- 昭和54年 4月 社団法人東京都深川歯科医師会会長 (58年3月まで)
- 昭和63年 4月 学校法人東京歯科大学評議員 (~現在)
- 平成 5年10月 学校法人東京歯科大学理事 (~現在)
- 平成11年 4月 更正保護法人東京保護観察協会監事 (平成12年9月まで)
- 平成12年 9月 更生保護法人東京保護観察協会理事 (~現在)
- 平成20年 8月 学校法人東京歯科大学理事長就任 (平成20年8月28日)

学校校医歴

- 昭和28年 4月 江東区立元加賀小学校歯科校医 (~現在)

賞 罰

- 昭和48年11月 東京都江東区区政功労表彰 (教育関係功労)

- 昭和55年11月 東京都教育委員会表彰 (学校歯科医)
- 昭和57年11月 東京都江東区特別功労表彰 (地域医療及び保健衛生の向上)
- 平成 4年 9月 法務大臣賞受賞
- 平成 8年10月 東京都知事表彰 (保健衛生功労)
- 平成 9年 3月 日本学校歯科医会会長表彰
- 平成12年 4月 勲五等雙光旭日章受章
- 平成12年11月 文部大臣賞受賞



理事長就任のご挨拶：平成20年9月9日（火）千葉校舎講堂（市川キャンパス及び水道橋キャンパスは、テレビ会議システムによるリアルタイム配信）

■ 法人理事の選任

平成20年5月30日開催の第649回理事会、第218回評議員会において、野崎 弘氏が、本法人寄附行為第8条第3項に規定する理事に選任された。

平成20年8月28日（木）に開催の第651回理事会、第219回評議員会において、井出吉信評議員が、本法人寄附行為第8条第2項に規定する理事に選任された。

また同日開催の第651回理事会において、井出理事が建設担当の常務理事に選任され、業務分掌が下記のとおり決定した。

なお井出理事の任期は、現行理事の残任期間である平成20年8月28日から平成23年5月31日までとなる。

常務理事	業務分掌
熱田俊之助 理事長	総括・校友
金子 讓 理 事	学務・人事
薬師寺 仁 理 事	財務・庶務
井出 吉信 理 事	建 設



熱田俊之助理事長



金子 讓常務理事



薬師寺 仁常務理事



井出吉信常務理事



鹿島隆雄理事



水野嘉夫理事



安藤暢敏理事



野崎 弘理事



岡村泰孝監事



大山萬夫監事

○新役員の略歴

野崎理事の略歴

野崎 弘

昭和14年 2月12日生

- 昭和37年 3月 東京大学法学部卒業
- 昭和37年 4月 文部省入省
- 昭和61年 9月 文部省大臣官房会計課長
- 昭和63年 6月 文部省高等教育局私学部長
- 平成 2年 7月 文部省体育局長
- 平成 3年 6月 文部省大臣官房長
- 平成 4年 7月 文部省初等中等教育局長
- 平成 7年 1月 文部事務次官
- 平成 8年 1月 公立学校共済組合理事長
- 平成10年 5月 学校法人東京歯科大学理事(平成13年11月まで)
- 平成13年11月 独立行政法人国立博物館理事長(平成19年3月まで)
- 東京国立博物館長(平成19年3月まで)
- 平成19年 7月 (財)教職員生涯福祉財団理事長(～現在)
- 平成20年 6月 学校法人東京歯科大学理事就任(平成20年6月1日)

井出理事の略歴

井出 吉信

昭和22年 7月25日生

- 昭和41年 3月 埼玉県浦和高等学校卒業
- 昭和41年 4月 東京歯科大学入学
- 昭和47年 3月 東京歯科大学卒業
- 昭和47年 5月 第51回歯科医師国家試験合格
- 昭和47年 5月 歯科医籍登録(第60777号)
- 昭和47年 4月 東京歯科大学大学院歯科研究科入学(解剖学専攻)
- 昭和51年 3月 東京歯科大学大学院歯科研究科修了(解剖学専攻)
- 昭和51年 4月 東京歯科大学解剖学教室助手
- 昭和52年 4月 東京歯科大学解剖学教室講師
- 昭和55年 4月 東京歯科大学解剖学教室助教授
- 昭和59年10月 東京歯科大学解剖学教室教授
- 平成10年 6月 東京歯科大学教務部長(平成16年5月まで)
- 平成11年 6月 学校法人東京歯科大学評議員(～現在)
- 平成16年 6月 東京歯科大学学監
- 学校法人東京歯科大学法人主事
- 平成19年 6月 東京歯科大学副学長(～現在)
- 平成20年 8月 学校法人東京歯科大学理事就任(平成20年8月28日)

第40回歯学体夏期部門開催

平成20年7月28日(月)～8月12日(火) 総合3位入賞



3位入賞の表彰を受ける、歯学体評議委員の野村昌史君(4年)：平成20年8月12日(火)、ホテルメトロポリタン盛岡



表彰部門・表彰選手がズラリ(学生課前の掲示より)

■昨年度より、順位を上げ、総合成績は3位入賞

第40回全日本歯科学学生総合体育大会の夏期部門が、7月28日(月)より8月12日(火)まで、岩手医科大学歯学部事務主管により岩手県近郊を中心に開催された。本学からは夏期25部門中19部門に約380名の学生が参加して熱戦を繰り広げ、硬式庭球部、陸上競技部が総合優勝をする他、ヨット部が準優勝を果たすなど健闘。昨年より1つ順位を上げ、総合3位入賞を果たした。(スキー部は、冬期部門において総合優勝)

■硬式庭球部男女完全優勝

今年の歯学体、硬式庭球部門は例年の軽井沢とは異なり、千葉県白子町テニスコートで開催され、29大学総勢835人が参加、本学からも39名の学生が参加した。また白子町テニスコートは、硬式庭球部が毎年夏の合宿で使用しており、慣れ親しんだコートでの試合となった。

今大会、男子は3人、女子は2人が歯学体初試合という事で、戦力的にはかなり厳しい状況であったが日々の厳しい練習が実を結び、見事東京歯科大学硬式庭球部としては史上初の男女、完全優勝という結果を残す事ができた。



硬式庭球部門 男女とも完全優勝した硬式庭球部員：平成20年8月2日(土)、長生郡白子町テニスコート

硬式庭球部主将 三原清志君

「昨年の8月に服部先輩からキャプテンを受け継ぎました。昨年は総合準優勝で、「今年こそは!」という周囲の雰囲気プレッシャーでしたが、同学、OBの先生方、先輩・後輩の協力もあって良い成績を残すことができました。昨年、主力メンバーだった先輩方が引退し、僕がキャプテンになったばかりの頃は、練習試合やリーグ戦でも全く勝てない時期が続きました。それでも

僕たちは日々練習に励み、その成果がデントルで出たことは、大変嬉しく思います。協力してくださったOBの先生方や先輩方、そして一緒に戦ってくれた同学や後輩に感謝しています。」

■陸上競技部 新時代到来 主管の困難乗り越え 悲願の平成初優勝

昨年の歯学体は、総合3位と躍進した東京歯科大学陸上競技部。金子 譲学長の出身クラブでありながら数年前には部員確保もままならず、存続の危機にさらされていたが、現5年生の5人が入部以来徐々に体勢を回復。今年は部門主管の負担もあったが、「主管をやりながらの優勝は困難」の常識を打ち破り、平成に入って初の優勝を成し遂げた。

なお、3種目で優勝した主将の多田恵子さん(3年)が最優秀選手賞を受賞した。

◎圧巻の男子リレー陣 4×100mリレーまずは1冠

陸上競技部門は1日で全日程を終了するが、午前中のメインイベントとも言える男子4×100mリレー決勝。予選1組を1位、全体でも2番目となる好タイムで決勝進出を果たした東歯大。悲願の優勝へ第一幕が切って落とされた。

1走は100mエースの河合章太君(2年)。好スタートを切ると、混戦から早くも飛び出しトップで2走へ渡す。2走は木村翔馬君(2年)。スキー部とも兼部し、体力・食欲抜群の猛者が後続を20m引き離して3走へつなぐ。3走はマイペースにレースを運ぶ長嶺優樹君(2年)。トップの座をガッチリキープしアンカーへ。最後は浅井雅敏君(3年)。安定した走り、追いつがる2位日大歯学部にも0秒14の差をつけゴール!卓越したバトンワークで1冠目を奪取した。

◎女子も4×100mで銀メダルの大健闘

女子4×100mリレー

悲願の優勝へ向け、前年度優勝校の鶴見大学と激しく鎬を削りあい、接戦を演じながら戦いも終盤となった女子トラック競技最後のレース。1走は、女子100mハードルで優勝、100mでも3位に入賞と大活躍の元主将、山崎晴香さん(5年)。横一線のスタートから早々とトップに立つと確

実に次走者へバトンを渡す。2走は女子3000m、800m、400mで3冠の女王、多田恵子さん。他を寄せ付けない走りでもトップのまま3走へ。3走は鈴木香里さん(4年)。ここでも粘り強くトップをキープし、アンカーの飯島由貴さん(5年)へ。トップのままつなごうとしたその刹那、痛恨のバスマス。タイムをロスした間隙を突き、昨年の優勝校鶴見大学が本学をかわしてトップに立った。追いつがる飯島さん。しかし惜しくも及ばず2位でゴール。銀メダルに終わりはしたが、トラック競技女子部門最後を締めくくるにふさわしい激闘であった。

◎男子4×400mリレー 最強の証明

いよいよ歯学体陸上競技部門、最後を飾るメインレース。総合優勝に向けて鶴見大学と予断を許さない状況が続いていた。ほぼこのレースで雌雄を決するのは間違いない展開。

1走は4×100mリレーに続き出場の切り込み隊長河合章太君(2年)。スピードに加えスタミナも要求されるこのレース。ほぼ中盤からスタートした河合君は、2位まで追い上げ次走木村翔馬君(2年)にバトンを託す。2走も100mに続き出場の木村君。さらに追い上げをかける木村君は徐々に先行走者との距離を縮め、ついには捕まえるとほぼ同時にトップでバトンをつなぐ。3走は4×100mで金メダルアンカーを務めた浅井雅敏君(3年)。バトンを受けるとそのまま単独トップに躍り出たが、すぐに抜かれて3位に順位を落とす。どうした浅井、これが限界か?しかし、これは緻密に計算された頭脳的レース戦略であった。わざと序盤で抜かせ、体力を温存すると、最後の直線で抜き返し再びトップに。アンカーは、増田隆雄君(5年)。110mハードルで優勝、走り高跳、走り幅跳びでも2位と5年生になってもオールラウンダー振りを発揮している。トップでバトンを受けるが、2位の鶴見大学も前回総合優勝の意地にかけて追いつがる。最後の直線、徐々に距離がつまる…がんばれば増田君!東歯大一丸となつての声援。残り20m、10m…わずかに振りきり、つんのめる様にゴールへなだれ込んだリレー最強を証明する二冠達成の瞬間であった。

そしてわずかに遅れて進行していた女子槍投げ。フィールドでは松本亞弓さん(2年)が優勝

を決めていた。緊張の本部集計席。3位以下には大差をつけている上位2校。鶴見大学92点、そして東京歯科大学は…97点

強豪鶴見大学を大接戦の末5点差で下し、悲願の平成初優勝。閉会式を終えた真夏の青空に、主将の多田恵子さんが、そして部長の中村光博教授の体が二度、三度と宙を舞った…

(写真・文章協力 陸上競技部OB会広報)



陸上競技部門 表彰式を終え、記念撮影をする陸上競技部：平成20年8月3日(日)、青葉の森スポーツプラザ陸上競技場

総合 優勝	東京歯科大学	97点
総合 第二位	鶴見大学歯学部	92点
総合 第三位	広島大学歯学部	77点
最優秀選手賞	多田恵子(3年)	

入賞者

男子

・4×100mリレー

優勝	東京歯科大学	第二位	日大歯学部
第三位	広島大学		

・4×400mリレー

優勝	東京歯科大学	第二位	鶴見大学
第三位	日大歯学部		

・110mH

優勝	増田隆雄(5年)
第二位	佐藤譲哉(3年)
第三位	浅井雅敏(3年)

・走り幅跳び

第二位	増田隆雄(5年)
-----	----------

・走り高跳び

第二位	増田隆雄(5年)
-----	----------

・三段跳び

第二位	佐藤譲哉(3年)
第三位	浅井雅敏(3年)

- ・ 1500m
第三位 大矢恭太郎 (2年)
- ・ やり投げ
第五位 長嶺優樹 (2年)
第六位 木村翔馬 (2年)
- ・ 200m
第五位 木村翔馬 (2年)
- ・ 100m
第六位 河合章太 (2年)

女子

- ・ 4×100mリレー
優勝 鶴見大学 第二位 東京歯科大学
第三位 日大歯学部
- ・ 3000m
優勝 多田恵子 (3年)
- ・ 800m
優勝 多田恵子 (3年)
- ・ 400m
優勝 多田恵子 (3年)
- ・ 100mH
優勝 山崎晴香 (5年)
- ・ やり投げ
優勝 松本亜弓 (2年)
- ・ 100m
第三位 山崎晴香 (5年)
- ・ 走り高跳び
第三位 松本亜弓 (2年)
- ・ 走り幅跳び
第四位 飯島由貴 (5年)
- ・ 200m
第六位 松本亜弓 (2年)

全29種目中20種目で入賞

- うち優勝 8種目
第二位 5種目
第三位 5種目

陸上競技部主将 多田恵子さん

「自分を強く持つこと」「感謝」この2つは、人が頑張る上での原動力になると私がこのデンタルを通じて強く実感したものです。1年前、東京歯科大学が主管に決まったとき、私は歴代の主管大学ができなかったことを東京歯科大学で成

し遂げたいと思っていました。それは主管として大会運営もこなし、参加校としても優勝すること。ただこれだけ大きな目標に部としていかにして向き合っていけば良いのかとても悩みました。運営準備も思うようにはいかず、忙しい学生生活の中何でこんなことをしているのだろうとまで思った時期もありました。そんな時に言われたのが「主将としてどっしり構えていない」この言葉は、私にとって辛い部分もありましたが、意味するものはとても大きかったと思います。それから、問題や行き詰まりは沢山ありましたが「言葉で伝えられなくても、常に全力の姿勢でいればきっと周囲もついてきてくれる」ようやく自分も覚悟をもって取り組めた気がします。また、このデンタルには本当に多くの人に関わってくれました。その方々への感謝の意味でも最高の形で結果を出したい、と強く思うようになりました。大会当日、やはりベストなコンディションで臨めた部員は多くはありませんでした。それでも誰一人として諦めず、ただただ目の前の競技に全力を尽くしていました。そのひとりひとりの頑張りが各々に意味を持った「運営成功と優勝」という大きな結果を生み出したのだと思います。大変な一年でしたがこれを通じて得たものを糧に、気持ちも新たに次へと走っていきたいです。

■スキー部(冬期部門)も見事優勝

デンタルの先陣をきって開催されたスキー部門は、北海道の鴨居岳スキー場で開催された。北海道でデンタルが開催されるのは4年ぶりのことで主管校である北海道大学歯学部が中心となり行われた。

日ごろ、オフの期間を除きグラウンドで地道に練習を行っているが、ここへ来てやっとその成果が表れたとも言える結果になった。

本学スキー部のメンバーは、全国規模の大会なども行う有名なスキー場で、コースも非常に難易度が高く全歯科大生が苦しめられた中、着実にポイントを取り全15名の部員が一丸となって総合優勝を勝ち取った。

今大会、男子は新入部員である木村翔馬君(1年)が個人で三冠をとる快挙を成し遂げ、総合優勝に多大な貢献をした。また赤塚公仁君(3年)

や山根茂樹君(4年)も上位に入賞し、上級生の意地を見せつけた。そして今回が現役最後の黒田英孝君(6年)や石川 昂君(6年)、内山 宙君(6年)も素晴らしい滑りを見せ、悔いの残らない自分らしいタイムを出した。

女子は藪下雅子さん(2年)が上位に食い込み、また高橋由香里さん(3年)も好タイムを出して女子部員が少ない中、素晴らしい結果を残した。(※学年は、大会当時)

<以下結果>

女子GS	4位	藪下 雅子(2年)
	6位	高橋由香里(3年)
	19位	高橋香央里(1年)
男子GS	30位	岡本江里奈(3年)
	1位	木村 翔馬(1年)
	7位	赤塚 公仁(3年)
	8位	山根 茂樹(4年)
OB戦GS	17位	黒田 英孝(6年)
	1位	田中公文先生(保存科OB)

女子団体総合は全種目で優勝。

男子団体総合は全種目で優勝。

女子個人総合	4位	藪下 雅子(2年)
	7位	高橋由香里(3年)
男子個人総合	1位	木村 翔馬(1年)
	7位	赤塚 公仁(3年)
	9位	山根 茂樹(4年)
	15位	黒田 英孝(6年)
	19位	石川 昂(6年)
	44位	寺嶋 悟(3年)

学校総合全種目で優勝。2位に60ポイント差をつけて優勝



スキー部門 閉会式を終え、笑顔で記念撮影をするスキー部員：平成20年3月16日(日)、歌志内市民会館

スキー部主将 寺嶋 悟君

今年のスキー部は、上級者から中級者、初心者の人まで様々です。しかし、上級者や初心者に関係なく、誰も努力を怠らず、日々努力して、スキー部に貢献できるように精進しています。

年2回冬と春に青森で合宿を行っているのですが、今回の合宿は1年生から6年生まで全員が集まったので、部員の数も多く、一番楽しく合宿を行うことができました。また、部員一同の長年の目標であったデンタル優勝は、自分たちで勝ち取ったもので、努力の結果と言えるはずで、6年生は今年のデンタルで卒業となるので、最高のプレゼントになったと思います。

来年に向けて、今年も基礎トレーニングから練習し努力しているので、連覇を目指して頑張ります。

■剣道部 2連覇ならずも女子団体戦初優勝

昨年の歯学部は、東京歯科大学唯一の総合優勝種目であった剣道部公式団体戦。総合二連覇を狙うも準々決勝で敗れベスト8に終わったが、女子団体戦で快進撃。創部史上初の優勝で剣道部門無冠の危機を救った(平成14年の優勝以降本年まで、7年連続で団体戦もしくは個人戦いずれかでの優勝を継続)。個人戦では、石田圭太君(4年)が二段以上の部で、昨年に続いて準優勝の成績を収めた。また、全日本歯科医師剣道連盟選出の優秀選手賞に石田圭太君、小林有希さん(衛校1年)の両選手が選ばれた。

女子団体戦

剣道部門女子団体戦は、3人制のトーナメント戦で行われる。先鋒小林有希さん(衛校1年)、中堅中田江利加さん(5年)、大将木村真由美さん(5年)の布陣で臨む。オープン戦とはいえ、1度負ければそれで終わりの一発勝負がみなぎる緊張感。

初戦の大阪歯科大学を2-1で下すと、準々決勝となる日大松戸戦を3-0の圧勝。中堅中田さんは一昨年初、マネージャーから一念発起して選手となり、わずか2年足らずで女子団体戦初勝利を挙げ、4強入りをその手で決めた。

2日目に入り、準決勝の相手は新潟大学歯学部。先鋒の小林さんが立て続けにメンを連取するも

中堅中田さんは二本負けで同勝者、同本数の大将戦へ。しかし、大将木村さんは開始わずか25秒でいきなりメンを奪われてしまう。3分の試合時間は刻々と過ぎていく…残りも1分を切った2分10秒、上段からのコテが炸裂ついに追いつく。だが、残り時間もわずか。このままいけば1本勝負の代表戦へともつれ込む。引き分けか…と思われた終了間際に放たれた一打は再びコテを捉えていた。決勝進出である。

決勝戦の相手は、主管校岩手医科大学歯学部。このようなケースでは、どんな競技でもいわゆる「ホームタウン・デジジョン」が起りやすい。また、ほんの数分前には、男子の公式団体戦準々決勝、個人戦二段以上の部決勝戦石田君が立て続けに敗れるという嫌な流れになっていた。東歯大女子チームはこのピンチを乗り越えられるのか？

決勝開始。ここまで先鋒で全勝、すべて2-0の二本勝ちを収めてきた小林選手であるが、なかなか一本が奪えない。このまま引き分けか…と思われた残り10秒、ドウを奪取。辛くも一本勝ちで中堅へとつなぐ。勝てば優勝が決まるが3枚の実力者を擁する岩手医大。センス抜群とはいえキャリアの短い中田さんには厳しく、惜しくも二本負けを喫し大将戦となった。1勝1敗ながら本数では一本リードされ、引き分けでは負けとなる。主管校相手に絶体絶命の大ピンチで木村さんが登場。相手は逃げ切れれば勝ちである。ここに最後の決戦が始まった。勝つしかない木村さんは怒涛の攻撃を見せる。みなぎる気迫で開始45秒、逆ドウを先取。一本勝ちでも優勝だが、取り返されれば奈落の底へ。守りに入ることなく攻撃の手を緩めぬ木村。ついに2分9秒、完璧

なメンを叩きつけ勝負あり。大ピンチを切り抜け、悲願の初優勝を果たした。剣道部門はOB団体戦も行われており、20名を越すOB参加者が現役とともに喜びを分かち合い、感動に酔いしれた夏が終わった。

(写真・文章協力 剣道部OB会広報)

■ヨット部門は、準優勝、硬式野球部門、ソフトテニス部門は、第3位

ヨット部門では、見事に準優勝を果たし、硬



ヨット部門 風を味方につけて快走見事準優勝：平成20年8月2日（土）、蒲都市海洋ヨットハーバー



硬式野球部門 試合前、気合を入れるために円陣を組む野球部員：平成20年8月1日（金）、花巻球場



ソフトテニス部門 閉会式を終え、笑顔で記念撮影をする軟式庭球部員：平成20年8月7日（木）、和賀川グリーンパークテニスコート



剣道部門 総合連覇を逃すも女子団体が優勝した剣道部員：平成20年8月10日（日）、岩手県宮武道館

式野球部門では、惜しくも準決勝で敗れたものの3位決定戦で勝利し3位となった。また、ソフトテニス部門は女子が優勝をあげ、部門別で3位となった。3部活とも、日頃からの練習の積み重ね、及び試合経験が今大会においての好結果につながった。

■様々なクラブ・学生が健闘

個人戦で大活躍し、大会を大いに盛り上げたクラブ・学生も多い。ここに一部を紹介したい。陸上部門では、増田隆雄くん(5年)が男子110mハードルで優勝、山崎晴香さん(5年)も女子100mハードルで優勝し、多田恵子さん(3年)は女子400m・800mで優勝した他、3000mでも優勝し、陸上部の総合優勝に大いに貢献した。また、松本亜弓さん(2年)は、女子槍投げで優勝し、男子のリレーでは、4×100mリレー、及び4×400mリレーの両種目で優勝した。ソフトテニス部門においては、池田朋子さん(3年)・大山陽子さん組(3年)が女子個人戦ダブルスで圧巻の強さを発揮、昨年に引き続き優勝を果たした。



陸上部門 総合優勝に大いに貢献した山崎さん(右・5年)と松本さん(左・2年)：平成20年8月3日(日)、青葉の森スポーツプラザ陸上競技場



ソフトテニス部門 今年も圧巻の強さで優勝した池田さん(左・3年)と大山さん(右・3年)：平成20年8月7日(木)、和賀川グリーンパークテニスコート

■来年は埼玉が舞台に

平成21年度の第41回大会は、明海大学歯学部の事務主管により、埼玉県を中心に開催される予定である。

■第40回歯学体総合成績(入賞以上)

優勝	愛知学院大学歯学部
準優勝	日本大学歯学部
3位	東京歯科大学
4位	日本大学松戸歯学部
5位	大阪歯科大学
6位	九州歯科大学

■第40回歯学体入賞部門 順位

硬式庭球部門	優勝
陸上競技部門	優勝
スキー部門	優勝
ヨット部門	準優勝
硬式野球部門	第三位
ソフトテニス部門(軟式庭球部)	第三位
バドミントン部門	第四位
バレーボール部門	第五位
剣道部門	第五位
水泳部門	第五位
ボウリング部門	第六位
弓道部門	第七位

野村昌史歯学体評議委員

今年は前大会よりも1つ順位を上げ、総合3位という結果となりました。大会に参加された学生の皆さん、本当にお疲れ様でした。来年も好成績が残せるよう、各部活の皆さんは努力を忘れずに頑張っていたきたいと思います。

このたび初めて歯学体評議委員と言う仕事をさせていただきました、様々な経験を得ることができました。評議委員会では、他大学の評議員との話し合いや交流があり、皆さん自身も大会に参加していらっしゃるということで、歯学体に向ける思いがひしひしと伝わってきました。また、この大会は主管校、主管部門を手伝っている学校の学生さん、先生方、開催地の地域の皆様のおかげで大会が運営できているということに感謝したいと思います。

本当にありがとうございました。

■歯学体スナップ



弓道部門 「狙い」を定めて集中：平成20年8月4日(月)、岩手県宮武道館



バレーボール部門 2枚ブロックで相手の攻撃を見事打ちとめる：平成20年8月7日(木)、盛岡市アイスアリーナ



空手部門 「エイッ！」と気合を入れて、相手を倒せ：平成20年8月3日(日)、奥羽大学体育館



卓球部門 相手の動きを逃さない：平成20年8月8日(金)、新田東総合運動場宮城野体育館

学内ニュース

■博士(歯学)学位記授与

○第577回 平成20年9月10日(水)授与

第548回(H18.2.15)合格

久保 浩太郎(歯麻)第1662号 甲・958号

第549回(H18.3.15)合格

相沢 甲也(保存Ⅲ)第1671号 甲・967号

第549回(H18.3.15)合格

中本 大介(口外)第1680号 甲・975号

第558回(H19.1.17)合格

太田 卓(歯周病)第1705号 甲・988号

第559回(H19.2.14)合格

田中 綾(有床義歯)第1715号 甲・998号

第560回(H19.3.14)合格

菊地 悠(矯正)第1725号 甲・1007号

■第274回大学院セミナー開催

平成20年7月29日(火)午後6時より千葉校舎第2教室において、第274回大学院セミナーが開催

された。今回は日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴学第2講座の渡邊文彦教授を講師としてお迎えし「日本歯科大学新潟生命歯学部における口腔インプラント学と大学院生のかかわり方」と題する講演を伺った。

はじめに、インプラント学はすでに国家試験にも出題されており、多くの基礎歯学や臨床歯学が関係する包括的な学問であることが認識されてきていることを説明された。さらに日本歯科大学新潟生命歯学部において、インプラント学は卒前・卒後カリキュラムの大きな分野にまで発展していることを詳しく紹介された。卒前教育としては、すでに平成7年より口腔インプラント学として4学年に8回の講義が行われ、ここでは補綴学、口腔外科学、病理学、組織学、解剖学の教員が共通のキーワードをもとに複合的な講義が行われている。さらに模型を用いた6時間のインプラント埋入実習も実施されていた。

一方、卒後のプログラムとして大学院生には、関連する臨床、基礎の各講座及び診療科が連携を取って、研究とインプラント治療の指導を行っているとのことであった。大学院の目標は、研究者の育成と臨床技術の習得にあり、これらを実践するためには各講座の緊密な連携が重要であると力説された。口腔外科の大学院生は、補綴学の指導教員からインプラント補綴について学び、解剖学の教授から学位論文の指導を受けていたり、あるいは、補綴科の大学院生が口腔外科の指導教員からインプラント埋入手術を学び、組織学の教授のもとで実験を行っていることが日常的に行われている。まさに垣根のない自由な臨床、研究が大学院生には保障されているわけである。

今回のセミナーでは、口腔インプラント学会の教育委員長でもある渡邊先生から、日本歯科大学新潟生命歯学部卒前・卒後の一貫性のある教育内容を紹介していただき、さらに大学院生に与えられている臨床と研究における高い自由度を示していただいた。本学の大学院生への教育に関して、大変参考となる実りの多い有意義な1時間半であった。



大学院セミナー講演風景：平成20年7月29日（火）、千葉校舎第2教室

■入試ガイダンス・オープンキャンパス開催

東京歯科大学への入学を希望する受験生を対象として、平成20年度入試ガイダンスが平成20年8月2日（土）に午後2時から水道橋校舎血脇記念ホールで開催された。8月23日（土）には午前10時から千葉校舎で開催された。

水道橋校舎にて開催されたガイダンスでは、液晶プロジェクター・ビデオ等を用いて、東京歯科大学の歴史・教育理念や教育カリキュラム、

国家試験合格状況、卒後進路状況、口腔科学研究センター、三病院の紹介、平成17年度文部科学省より選定を受けた特色GP、現代GPの概要等について紹介し、また、平成21年度入学試験の概要について説明した。その後、水道橋教職員の案内により病院見学を行い、希望者については教務部・学生部の教員との個別面談を実施した。当日は33名の参加があり、個別面談希望者の行列ができるなど本学の情報を得ようという熱気に溢れた盛況なガイダンスとなった。

千葉校舎にて開催したガイダンスは、昨年に引き続き夏休み期間に実施した。当日は134名もの参加者を集め、大変盛況であった。午前中は、高瀬保晶准教授を中心とした保存修復学講座の協力によりコンポジットレジン修復の体験実習を実施した。実習にてレジン填塞された人工歯はストラップを付けて参加者にプレゼントされた。昼休みには、食事券を用意し第一食堂にて学食の味を味わってもらった。午後からは末石研二教授による「歯は動く」、石原和幸教授による「口腔内細菌の病原性」と題した二つの模擬授業が行われた。最新設備の整った臨床基礎実習室での体験実習、その実習に関連した模擬授業など、大学で学ぶ歯科医学専門科目に関する内容を体験し、参加者からは、「模擬授業を受け、より一層入学意欲が湧いた」、「体験実習をしている歯科大学は東京歯科大学だけで、とても興味深く楽しく実習ができた」などの感想が寄せられた。その後、平成21年度入試についての説明があり、入試科目のポイントについて、望月隆二教務副部長から解説があった。続いて、大学の特色・カリキュラム等の紹介、学生生活等についての説明の後、学内見学を行い、希望者には個別相談を実施した。



体験実習風景：平成20年8月23日（土）、千葉校舎臨床基礎実習室

学内見学では、実習講義室、臨床基礎実習室、解剖標本室、図書館、千葉病院などを回り、本学の貴重な標本、充実した設備等を示し、また、本学の無線LAN、CBT用PCなどの情報関係設備・環境については、参加者が実際にPCを操作し、その充実した環境を体験した。

今後のガイダンスは、11月2日(日)に千葉校舎(東歯祭開催中)で、12月7日(日)に水道橋校舎で、実施する予定である。

■「口腔がん専門医養成コース」大学院生が9大学共同事業体主催「チーム医療ワークショップ」に参加

本学大学院が参加している文部科学省のがんプロフェッショナル養成プラン「南関東圏における先進的がん専門家の育成」を構成する9大学が合同で、平成20年度「チーム医療ワークショップ」を8月2日(土)から6日(水)までクロスウェーブ府中で開催した。本学からは同コースを専攻する河地 誉(2年次)、大野啓介(1年次)、斉藤寛一(1年次)、伊川裕明(1年次)の4名の大学院生が参加した。各大学のがんプロフェッショナル養成プランに参加している医師、歯科医師、薬剤師、看護師、放射線技師等の大学院生46名が7つの混成グループに分かれ5日間にわたり、「実際の事例を通じた医療安全についてのグループ討議」、「医療者コミュニケーションをテーマにした振り返り」、「がん医療現場を題材にしたロール・プレイ」を行い、併行して参加大学の教員によるがんのチーム医療をテーマにした講義を受講した。連日午前8時30分から午後9時過ぎまで講義とグループ学習が繰り返され、参加者は様々な立場で活発に意見を交換し、本学の大学院生も各グループの中でリーダーシップをとって活躍した。夜には普段聞くことが少ない他大学や病院におけるがん医療や医療安全の実情についてリラックスした雰囲気でお互いの情報交換を行った。本学口腔外科学講座の片倉 朗准教授は「がん医療における歯科・口腔外科の役割」と題して、口腔がんの実情と口腔外科におけるその治療、がん医療における口腔ケアや摂食・嚥下指導での歯科の重要性について講義を行った。医師や看護師の方々に「がん」のみならず医療現場での今後の歯科の重要性を新たに認識し

てもらおう契機となった。セミナーに先立って本プロジェクト内での競争的研究費の募集があり、大野啓介大学院生が応募した「口腔がんのリスクファクターとなるHuman papilloma virusの非侵襲的な検出方法」が見事採択され、研究奨励金50万円を獲得しセミナーの中で研究のプレゼンテーションを行った。

多くの医療職と意見を交換しながら臨床家と研究者の両面から人材育成が行われ、非常に有意義なセミナーであり今後も毎年継続される。



本物の俳優が扮した患者と参加者によるロール・プレイを観る受講生たち：平成20年8月5日(火)、クロスウェーブ府中

■平成20年度 歴代学長・役職者の墓参

例年、夏季期間に行なわれている歴代学長・役職者の墓参は、金子 譲学長、永井隆夫事務局長をはじめとする大学職員により下記の日程で執り行われた。

8月8日(金)

高山 紀齋 先生	杉並区「文殊院」
血脇守之助 先生	松戸市「八柱霊園」
花澤 鼎 先生	松戸市「八柱霊園」
福島 秀策 先生	松戸市「八柱霊園」
鹿島 俊雄 先生	市川市「市川霊園」



高山先生の墓参を行う金子学長：平成20年8月8日(金)、杉並区「文殊院」

関根 弘 先生 横浜市「東戸塚霊園」

8月11日(月)

奥村 鶴吉 先生 東村山市「小平霊園」

杉山 不二 先生 府中市「多磨霊園」

松宮 誠一 先生 府中市「多磨霊園」

高木圭二郎 先生 新宿区「真英寺」

8月12日(火)

関根 永滋 先生 栃木県藤岡町「慈福院」

■(社)日本口腔外科会ECCトレーニングサイト によるBLSコースを千葉病院で開催

9月6日(土)、7日(日)の2日間にわたり(社)日本口腔外科会ECCトレーニングサイトによるBLS(Basic Life Support)コースが千葉校舎で開催された。本講習会はAmerican Heart Association(AHA)が世界数十カ国から300人の学者を集め25,000以上の論文をレビューしてガイドラインを作り、そのガイドラインに基づいて世界共通の方法でAEDを用いた一次救急蘇生のトレーニングが行われる教育コースである。口腔外科をはじめとした多くの歯科医師や看護師・歯科衛生士等にも広めていく目的で前回の市川総合病院に続いて千葉病院でも開催された。両日で千葉病院の口腔外科のみならず他の診療科や基礎系講座の歯科医師、看護師、歯科衛生士、千葉病院と地域連携する歯科医師等46名という多くの方が受講した。受講生は「いつか目の前に現れるかもしれない患者さんのために」1日間のコースでDVDを見ながら実習を中心に成人・小児・乳児のCPR(一次蘇生)、AEDの使用法、窒息の解除などを真剣な態度で学んだ。受講者はインストラクターによって確実な実技の習得を確認されて修了となり、修了者にはAHAのHealthcare



受講生4名を1名のインストラクターが担当し、ほぼ半日人工呼吸と心臓マッサージの実習が絶え間なく続く：
平成20年9月6日(土)、千葉校舎

Providerとしての修了証とバッジが交付された。今後も学内でより多くの方がBLSの講習を受講されることが望まれる。

■第76回歯科医学教育セミナー開催

平成20年9月10日(水)午後6時より千葉校舎第1教室において、第76回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「メリーランド大学歯学部およびブリティッシュコロンビア大学歯学部における臨床フレームワーク」と題し、佐野 司教務副部長、井上 孝教授より説明が行われた。

まずはじめに、佐野教授からブリティッシュコロンビア大学歯学部へ訪問した際の概要と第69回歯科医学教育セミナー(平成19年12月10日開催)で説明があったメリーランド大学歯学部を訪問した際のより詳細な話を加えて、今後本学が教育カリキュラム、臨床実習等を改革していく上で参考となる話をしてもらった。メリーランド大学歯学部においては、日本の歯科大学に類似したオーソドックスな臨床フレームワークが行われており、充実したシミュレーションシステムが実際の診療室とは別に設置され、夜遅くまで利用できるようになってきているとのことである。また、ブリティッシュコロンビア大学歯学部は、総合診療を中心としてその周りに専門診療が設置されている中で臨床フレームワークが行われ、学生は診療室に設置されたシミュレーションシステムを使用し臨床実習を行っているとのことである。

次に、井上教授からブリティッシュコロンビア大学歯学部を訪問した時の詳細と今後本学の臨床実習を改革していく際に、海外で実施されている臨床実習方法を参考にしながらどのように考えていくべきかについて説明があった。メリーランド大学と同様にブリティッシュコロンビア大学においても寄付が盛んに行われていることと、ブリティッシュコロンビア大学は診療室の中にシミュレーションシステムを設置しているため、診療室の形を工夫しているとのこと等について説明があった。今後本学の臨床実習の新たなフレームを考えていく上で、大事なことは本学の状況すなわち学生数、教員数、現在のシミュレーションシステム、病院の運営状況等を踏まえ、海外において参考となる事例があ

れば取り入れ、本学において最適な方法を選択していくことが重要であるとのことである。当日は90名近い参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



説明する井上教授：平成20年9月10日（水）、千葉校舎第1教室

■第275回大学院セミナー開催

平成20年9月11日（木）午後6時より千葉校舎第2教室において、第275回大学院セミナーが開催された。今回は、自然科学機構生理学研究所岡崎統合バイオサイエンスセンター・ナノ形態生理学研究部門の村上政隆准教授を講師にお迎えして、「唾液分泌における経細胞輸送と傍細胞輸送」と題する講演を伺った。

唾液腺は、消化管の最初の外分泌腺として種々の蛋白とともに大量の水分分泌をおこなっているが、すべて細胞内からの分泌（経細胞輸送）によると考えられてきた。この唾液の分泌のしくみについて、実は細胞間の結合を通過する輸送（傍細胞輸送）も存在し、水分の輸送、血中成分の唾液への移行が起こっていることを、先生の長年の唾液腺研究の成果から、わかりやすく解説していただいた。古い時代には唾液がどのように考えられていたか、また、唾液腺や唾液腺の排泄管がいつ頃発見され、どのような研究がなされて来たかという歴史の話しを交え、最新の唾液分泌の研究について、楽しく伺うことができた。

本講演では、1) 腺細胞からの分泌はapical membraneと表現される狭い場所ではなく、細胞間分泌細管と呼ばれる構造で、二つの細胞の間を並行するclaudin鎖が作り出す管であり、基底側が盲端で始まり、apicalで合流して導管へ連なる。傍細胞輸送はこのclaudin鎖（tight junction）を

通過する輸送であること。2) どのくらいの大きさの分子がここを通過するのか?をトリチウ（³H）でラベルした種々の大きさのデキストランを灌流液にいれ、これが血管側から唾液に出現する様子を見ると、分泌刺激中には、半径5Åより小さな分子を通すルートと、大きな分子も小さな分子も通すルートが開いていおり、刺激のないときには開いていないこと。3) 細胞間分泌細管の表面にはaquaporin 5という水チャネルが分布し、水透過を担うとされているが、collagenase処理でtight junctionを蛍光色素が通るようにして、分泌により細胞内から分泌される水分を観察すると、分泌の初期は経細胞水分分泌が多いが、30秒以降の分泌持続期では傍細胞輸送が全体の2/3にも達すること。4) 経細胞の水の流れにとけ込んだ細胞間隙/血液の分子が唾液に移行することから、これを利用して唾液による化学診断が可能になろうとしていること、など、最新の知見を、広範囲で詳細な実験結果により解説された。

唾液診断に対する臨床応用への展望も示されるなど、聴衆にとっても大変興味のあるものであり、講演終了後は様々な質問が出され、有意義で学際的な討論が行われた。



講演される村上准教授：平成20年9月11日（木）、千葉校舎第2教室

■平成20年度 東京歯科大学教授懇親会開催

「東京歯科大学教授懇親会」は、9月16日（火）午後6時30分からホテルニューオータニ幕張「翔の間」において、千葉校舎第1会議室で行われた全体教授会の終了後に開催された。

今年度の懇親会は、8月28日（木）開催の理事会において、新理事長に熱田俊之助先生が就任されたこともあり、法人役員・大学幹部と本学全教授が一堂に会し懇親を深めることにより、

本学教職員としての結束を一層はかることを目的としたものであった。

懇親会は平井義人法人主事の司会進行のもと、薬師寺 仁副学長の開会の挨拶のあと、法人役員の紹介が司会の法人主事からあった。その後、熱田俊之助理事長、金子 譲学長、野崎 弘理事の挨拶があり、大山萬夫監事の乾杯の挨拶によって会がスタートした。

終始和やかな雰囲気では進行し、交流、懇親を深め、午後8時に井出吉信副学長の閉会の挨拶で今後の本学のさらなる発展を祈念し、盛会裡のうちに終了した。



挨拶される熱田理事長：平成20年9月16日（火）、ホテルニューオータニ幕張



乾杯される大山監事：平成20年9月16日（火）、ホテルニューオータニ幕張

■第276回大学院セミナー開催

平成20年9月17日（水）午後6時より千葉校舎第2教室において、第276回大学院セミナーが開催された。今回は北海道医療大学大学院歯学研究科、個性差医療科学センター安彦善裕教授を講師にお迎えして「上皮性抗菌ペプチドの新たな側面－病態発症への関与と治療応用への可能性－」と題する講演を伺った。

上皮は生体の外界の最前線に存在し、内部環

境を保護する働きがある。つまり、上皮が病原微生物の侵入を防ぐために、機械的防御機構以外にβディフェンシンとカセリシディンなどの抗菌ペプチドの産生による防御機構が備わっている。これらの抗菌ペプチドは、う蝕や歯周炎の防御機構にも重要な役割を担っており、口腔の感染性疾患の治療や予防への応用が期待されている。また、これらのペプチドは、抗微生物効果としての働き以外にも、獲得免疫への関与やがん抑制遺伝子としての可能性など多様な作用のあることが示唆されている。このような背景のもと、安彦教授は、上皮性抗菌ペプチドの新たな側面について、1) 易感染性疾患への遺伝子治療の可能性、2) がん発症への関与や治療応用への可能性、3) 口腔粘膜疾患発症への関与などについて話された。今回の講演は口腔科学研究センターのメンバーの参加が多く、多岐に渡る質問がなされ、大変内容の濃い有意義な約1時間のセミナーであった。



講演される安彦教授：平成20年9月17日（水）、千葉校舎第2教室

■千葉校舎防災訓練実施

9月19日（金）午後1時30分から千葉校舎において防災訓練が実施された。

今回は、夜間防災訓練、火元責任者の通報訓練、屋内消火栓操作訓練の3つの訓練が実施された。始めに行われた夜間防災訓練は、あらかじめ選出された宿直者及び病院勤務者等約20名が参加し、夜間に火災が発生したことを想定して、夜間通報訓練、初期消火訓練、患者避難誘導訓練をおこなった。初めて訓練に参加する人がほとんどであり、緊張感のある訓練となった。

続いて、行われた火元責任者の通報訓練では、各教室幹事等の学内における火元責任者約60名

が参加し、「地震が発生しました。」という訓練放送後、各自、担当地域を点検、被害状況を仮設の防災センターへ報告する訓練をおこなった。火元責任者の自覚と当該意識の向上を目的としたものであるが、各自の役割が改めて確認できた訓練となった。

最後に、実習講義棟3階の屋内消火栓を利用して、屋内消火栓操作訓練を行った。訓練希望者約30名が、ホースの取り出し方、ホースの接続方法、水の出し方、構え方などの説明を施設課技術員から受け、実際に体験した。



屋内消火栓の操作方法の訓練を受ける参加者：平成20年9月19日（金）、千葉校舎実習講義棟3階

■平成20年度解剖諸霊位供養法会

平成20年9月29日（月）午後2時30分より、水道橋校舎血脇記念ホールにおいて、平成20年度解剖諸霊位供養法会が執り行われた。

井出吉信副学長（解剖学講座主任教授）はじめ大学幹部、関係教職員、2学年学部学生、歯科衛生士専門学校学生代表、ご遺族ならびに東京歯科大学白菊会の方々が参列し、歯科医学の教育と研究のため尊いご意志を持って献体戴いた諸霊位に対し感謝を捧げ、ご冥福をお祈りした。本学開設以来、4千有余柱の御霊に向かい真珠院石井道彦導師の誦経に続き、井出副学長が祭文を奉読し、参列者全員の献花が行われた。

続いて、学生を代表して第2学年の石田結実香さんより、ご遺族に対して挨拶、次にご遺族を代表して、田中文次様のご挨拶があり、本年度の解剖諸霊位供養法会を滞りなく終了した。

その後、ご遺族並びに大学関係者が文京区小石川の真珠院を墓参し散会した。



祭文を奉読する井出副学長：平成20年9月29日（月）水道橋校舎血脇記念ホール

訃報 菅野隆三名誉教授ご逝去



本学名誉教授、菅野隆三先生（数学）は、病气加療中のところ、平成20年8月8日にご逝去された。享年73歳。

菅野先生は、昭和34年3月に東京理科大学理学部数学科を卒業され、高等学校の教諭を勤めながら、昭和45年から東京理科大学理学研究科に進まれ、昭和53年3月に理学博士の学位を授与された。

本学には、昭和54年4月より、東京歯科大学

数学教室助教授として着任され、昭和58年4月に教授に就任された。その後、平成13年3月に退職されるまで、教育だけでなく、法人の評議員を務めるなど多方面でご活躍された。

菅野先生のご専門は統計学であった。「統計学の基礎」等の著書もあり、広く統計学の普及にご尽力された。本学はもとより様々な研究機関との共同研究、非常勤講師などに従事された。また、コンピュータやプログラミングなどにも精通され、本学のコンピュータ部の顧問を長い間務められ、学生からも慕われた。

先生のご葬儀は8月11日（月）午前10時より、町田市の湘和会堂町田でしめやかに執り行われた。

長期海外出張報告

■歯科矯正学講座 助教 西井 康

平成19年8月26日から1年間、アメリカ、ロサンゼルスにあるUniversity of Southern California School (USC) School of Dentistry Orthodontic Departmentに留学させていただきました。USCは1880年に設立されたアメリカ西海岸最古の私立大学です。また、歯学部は1880年に創立され、著名な歯科医師と研究者を数多く輩出してきた全米でも屈指の名門校です。校風は、カリフォルニアの陽気さの中にも伝統校らしい厳格な一面があり、また同窓生の愛校心が強く家族主義的などが特徴です。このため、東京歯科大学と共通点が多く私にとって居心地のよい大学でした。

USC歯科矯正学講座の主任は、日系3世のDr. Sameshimaです。彼は5年間の日本での滞在経験があり、日本人の特性をよく理解しており、私に対し日本的な気配りをさせていただきました。USC歯科矯正学講座は、卒後研修コースが充実しており、全米でも高い評価を受けています。このため高額な授業料にもかかわらず、6人の募集人員に対して全米より150人から200人の応募があります。卒後研修プログラムも、基礎から臨床に渡り充実しており、当校における卒後研修の参考になりました。また、非常勤講師として研修生に対して授業を行う機会を与えていただきました。USCのアンダーグラジュエート教育の特徴としては、PBLが挙げられます。自学自習のスタイルを重んじると同時に、学生は高いプレゼンテーション能力も要求されます。私もPBLワークショップに参加し、運営の実際を見学してまいりました。

臨床面においては、診療室の規模は当科とはほぼ同じですが、予約・患者管理システムはデジタルで行われています。また、7年前よりコンベームCT装置が設置され、全ての矯正患者を撮影しています。セファログラム・パントモの撮影は行わず、その代わりにCT画像データより、セファロ画像、パントモ画像を作成し、分析・診断を行っています。3次元画像から2次元画像への変換が、早くも臨床応用されている事に先

進性を感じました。患者の人種構成は、ロサンゼルスらしく、多様性に富んでいます。各人種において顔面形態の基準が違っており、治療のバリエーションが必要となってきます。このため研修生にとっては大変貴重な経験であると考えます。

私の研究は、USCにおける患者の3次元CTデータを使用して、口蓋骨形態を人種間で比較致しました。また留学期間中に、アメリカ歯科矯正学会、ヨーロッパ歯科矯正学会においてポスター発表が出来ました。今後は、これらの研究を積み重ねインプラントアンカーの適切な埋入位置、インプラント矯正治療のメカニクスについて検討していきたいと思っております。

海外における体験は私にとって全てが貴重なものでありました。長期海外出張におきまして、ご理解、ご尽力、また私の不在中にご迷惑をおかけした方々に心より感謝致します。ここで得ました知識、経験、感性をもとに、本学における研究、教育、臨床に貢献すべく更なる研鑽に励む所存でございます。厚く御礼を申し上げます。



USC歯科矯正学講座主任Sameshima先生（写真右）と教授室にて：平成20年7月

国際渉外部レポート

■ Sheffield大学より見学生来校

平成20年5月12日(月)より5月15日(木)まで、英国Sheffield大学歯学部5年生、Jay Doshi君とAnand Lakhani君、Chetan Mistry君の3名が、選択学習(Elective Study)の一環として、東京歯科大学を見学するため来校した。

彼らは12日午前、本校に到着し、千葉病院および学内を見学したのち、市川宿舎に宿泊。13日は口腔インプラント科を見学した。14日は金子 譲学長と面会し修了証を受領した後、千葉病院・口腔外科の手術を見学し、15日は市川総合病院・口腔外科にて外来見学を行った。

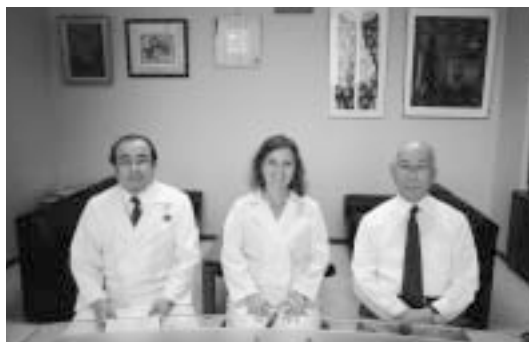
今回の3人は、昨年Sheffield大学から選択学習のため来校した学生に本学を薦められての来日だった。今後もこうした形で希望が増えることが望まれる。



Sheffield大学の見学生：平成20年5月14日(水)、千葉校舎学長室

■ ブラジルの訪問研究員受け入れ

平成20年6月11日(水)より9月29日(月)まで、



井上国際渉外部長と共に学長室を訪れたMoreira先生：平成20年6月9日(月)、千葉校舎学長室

ブラジルの歯科医 Ana Tricia Figueiredo Freire Moreira 先生が、訪問研究員として臨床検査学研究室に在籍し、研究活動を行った。Moreira先生は熱心に研究に取り組んで課題を仕上げ、帰国前、本校の大学院に入学したいという意思を表示された。再会を期待したい。



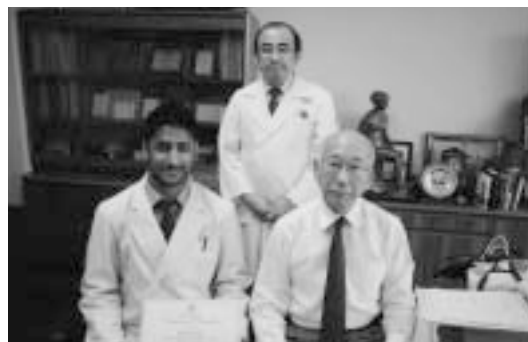
学食にてKhan先生(パキスタン)、八木国際渉外部員、Moreira先生(ブラジル)、Saigal君(英国)：平成20年7月17日(木)、千葉校舎厚生棟

■ Newcastle大学より見学生来校

平成20年7月14日(月)より7月17日(木)まで、英国Newcastle大学歯学部5年生Rohan Saigal君が、選択学習(Elective Study)のため来校した。

彼は、14日に千葉病院および千葉校舎、15日に市川総合病院・口腔外科外来、16日に水道橋病院・総合歯科と3つのキャンパスを見学した。17日には金子 譲学長と面会し修了証を受領した後、千葉病院・口腔外科の手術を見学した。

今回の来校は夏期休暇期間中で、学生との交流ができなかったこともあり、今後は、ある程度こちらが指定した日程で選択学習の学生を受け入れられるよう検討したい。



金子学長より修了証を受領した英国・New Castle大学の見学生：平成20年7月17日(木)、千葉校舎学長室

学生会ニュース

■関東医歯薬獣医科大学剣道連盟 創立五十周年記念誌寄贈される

昨年秋に行われた、第50回秋季関東医歯薬獣医科大学剣道大会、連盟創立五十周年記念大会にあわせて作成された記念誌が、平成20年6月1日に開催された第51回春季関東医歯薬獣医科大学剣道大会において加盟各大学に配布された。本連盟は東京歯科大学、東京医科大学、日本歯科大学、日本医科大学の4校で昭和32年に発足し、昨年11月11日東京医科大学において、本学剣道部主管のもと記念大会、記念行事が開催された。大会自体は5連覇の連盟新記録を狙った本学剣道部であったが、決勝戦わずかな差で準優勝となり、記録更新はならなかった。記念行事は、関東学連のトップレベルの選手を招待しての交歓試合（本学からは石田圭太君（4年）が出場し、医歯薬獣代表唯一の勝ち星を挙げ優秀選手賞を受賞した。）、日本の最高レベルとも言える、警視庁剣道指導室の先生方による演武など多彩なプログラムと記念祝賀会が行われ、本学剣道部の主管は試合内容ともども高い評価を得た。記念誌にはこれら記念大会の内容および各大学代表による連盟の歴史や各剣道部の歴史を記した文集が収録され、当時の学生部活を示す貴重な資料となっている。田崎雅和剣道部副部長より学生課にも1部寄贈され、また本学図書館にも寄贈予定である。



寄贈された関東医歯薬獣医科大学剣道連盟、創立五十周年記念誌の表紙

■2008日中歯科学生交流事業

国際医療研究会の田中らいらさん（2年）、福岡玲雄君（4年）、黄地健仁君（4年）は、海外スタディツアーとして2008年8月5日（火）～8月20日（水）（移動日含）の約2週間、中国の上海、成都、北京、天津を訪れた。今回の事業は東京歯科大学を主催とし、千葉大学医学部、岩手医科大学、神奈川歯科大学、北海道大学の参加とともに外務省等の後援を受け実施することが可能となった。

日中両政府は、日中両国の将来を担う青少年の交流を促進し、両国青少年の相手国に対する理解と友好的感情の増進を目的として、2008年を「日中青年友好年」とした。2008年5月に中国の国家主席としては10年ぶりに来日した中国の胡錦濤国家主席も、日中両国の青少年交流の重要性を説く声明を表明した。今回の事業はそれに相応しい「日中青年友好交流年認定事業」として日本を代表して中国を訪問することとなった。

本事業は、両国の次世代を担う歯科学生が国際交流活動を実施することにより、友好や相互理解を深め、歯科保健医療を通じた社会貢献や将来を通じた両国間の連携強化や交流を推進していくことを目的とした。上海ではNISSIN歯科工場見学、成都では四川大学華西口腔医院への訪問、四川大地震の震源地視察、北京では国家衛生部、日本大使館訪問、首都医科大学での学術・文化交流、天津では南開大学附属口腔医院の見学などが実施された。

「日中歯科学生交流事業を終えて」

黄地健仁学生代表（国際医療研究会）

僕は8月5日（火）に、先発隊として船で中国上海へと向かった。出発直前に起こった中国でのテロのこともあり、不安と緊張感があった。7日（木）に上海入りし、その後、成都・北京・天津と、20日（水）に帰国するまで楽しくもあり過酷な日々でもあった。

特に印象に残っているのは、成都（都江堰）での地震の爪あと。四川大地震の震源地付近である都江堰に近づくにつれ、徐々に変わるその光景に言葉が出なかった。地震の惨劇が残るその

裏で、必死に生きる人々の姿には見ていて震えるものがあった。そして何より、彼等の笑顔の中には強さが垣間見えた。

また北京での首都医科大学との学術交流・文化交流はとても自分にとって充実したものだった。英語と中国語と日本語が飛び交うという、初めて見る光景だった。言葉を通じて文化を共有する素晴らしさを再認識する、そんな場もあった。

中国では多くの場所・教育機関を訪問したが、それ以外の何気ない街中にも中国の文化が見られ、日本との違いを痛感することさえあった。食生活や治安の問題、それは日本で流れるニュースなどから想像していたものとは違い、現地でしか感じ取れないものだった。

僕は船での渡航だったが、船の中には様々な人達がいる。日本人はもちろん、欧米人、複雑な生い立ちの中国の子供達もいた。しかし、子供達は自分の生い立ちや将来の夢などを笑顔で僕に話してくれた。「どこに“複雑”と“普通”のボーダーラインが存在するの？」そんな問いかけが聞こえてきそうだった。彼等の笑顔がボーダーラインを蹴り飛ばしてくれた。彼等の生い立ちが「複雑」だとレッテルを貼っていた自分、そしてそのように感じるように向けられた日本の教育やメディアに情けなさを覚えた。

今感じることを文字・文章にしたが、全てを表すことができない。それほどまでに中国での日々は何にも変えることができないほど心と眼の裏に強く焼きついている。

最後になりましたが、今回の日中歯科学生交流事業に関わってくださった全ての方々にこの場を借りて感謝申し上げます。今回の事業が、今後の



四川大地震の震源地視察現場にて：平成20年8月10日（日）中国・成都（都江堰）

日中歯科学生交流事業、そして何より両国の交流の発展に繋がることを願って止みません。



首都医科大学学生との学術交流（上段、右から2人目が黄地君）：平成20年8月13日（水）中国・北京（首都医科大学）

■SCRP日本代表選抜大会 山崎加恵さん（第5学年）が見事3位入賞

全国の歯科大学・歯学部の学生が研究の実践発表能力を競う、平成20年度スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRP）日本選抜大会が8月20日（水）、東京・市ヶ谷の新歯科医師会館で開かれた。SCRPとは、次世代の歯科界を担う歯学生の中から臨床・研究・教育を含めた、国際的な歯科医師の輩出を目的として、英語によるテーブルクリニックと質疑応答によって能力を競う大会であり、世界35カ国で行われ、各国の歯科医師会主催、米デンツプライ・インターナショナル社後援で実施されている。14回目となる今大会には全国歯科大学・歯学部29校中、18校からスチューデント・クリニシャンの参加があり、本校からは学内選考会を経て、第5学年の山崎加恵さんが東京歯科大学代表として出場し、見事、第3位入賞を果たした。

山崎さんの研究は、大学入学以前にホームヘルパーとして、自ら学んだ経験をきっかけに、“Development of Oral Hygiene Evaluation System for Prevention of Aspiration Pneumonia in the Elderly”（高齢者における誤嚥性肺炎予防のための口腔衛生評価法の開発）と題し、第3学年在籍中より微生物学講座で日々温めてきたものであった。審査ならびに一般公開を終えた後の表彰式では3位入賞の栄誉を称え、表彰状と盾、賞金が授与された。

山崎加恵さん

私がSCRPの存在を知ったのは、大学1年の時、

英語の先生に教えて頂いたのがきっかけでした。6年間学生でいる間に、日常の授業や試験以外にも、ひた向きに、情熱を傾けられる何かが必要！と感じ、微生物学講座に飛び込みました。実際の研究に入る前に約1年間の予備実験を行い、やっと本実験にこぎつきました。限られた時間の中で本当に研究という形にまとめられるのかという焦りを感じながらも、約2年間多くの人に支えられ、大変充実した刺激的な日々を送ることが出来ました。

研究では100名ほどの唾液サンプルとして同級生、先輩や後輩の皆さんに協力して頂き、高齢者施設では、受け入れて頂けるか不安を抱きながら、施設側に交渉して協力を求め、ひとつずつ研究の主旨を説明しお願いにあげました。その際、この研究をご理解くださり、励ましのお言葉や逆に感謝のお言葉まで頂いたことは忘れられない感動的な出来事でした。研究におけるこうした体験から、“研究”のもつ“人を幸福に出来る可能性”の素晴らしさなるものを感じ取ることが出来ました。

また、本大会で出会ったスチューデント・クリニシャンはどの学生も志高く、皆似たような苦楽を経験してきただけに、すぐに打ち解けあい、学生の視点から様々な語らいの場を持つことが出来ました。こうした出会いも本大会の魅力の一つであると思います。

今回いただいた3位は、その時の審査と全てのタイミングが合って、幸運にも得られたものだと思います。しかし研究を通して、身を持って学んだ、“理論立てて考えること”の大切さや難しさ、この達成感は一生涯のものであると確信しております。近すぎず、決して遠すぎない位置からご指導



すばらしい発表で、見事第3位に入賞した山崎さん：平成20年8月20日（水）、新歯科医師会館

くださり、いつでもディスカッションの機会を与えてくださった微生物学講座の石原教授、休み時間も休日でも講座に通う私を温かく見守り、居場所を与えて下さった微生物学講座の先生方、研究補助員の方、そして、いつも帰りの遅い私を心配し支えてくれた家族、友人たち、挙げたらきりが無いほど、多くの方に支えられました。改めて、心から感謝申し上げたいと思います。

■延世大学校歯科大学との学生交流本学学生代表14名が訪韓

今年で21回目を迎えた延世大学校歯科大学との学生交流は、8月18日（月）から22日（金）までの4泊5日の日程で、佐藤 亨学生部長、小倉 等学生課長引率のもとに、14名の学生代表、そして延世大学校歯科大学から招聘された町田幸雄名誉教授の計17名が訪韓した。

学生代表のメンバーは学生会総務委員長の藤本 明君（5年）、学生会歯科学生交流会局長の小島佑貴君（4年）をはじめ、高原利和君（4年）、渡邊美貴さん（3年）、藪下雅子さん（3年）、納賀秀則君（3年）、金 亨俊君（3年）、奥原優美さん（3年）、高橋香央里さん（2年）、染屋智子さん（2年）、齋藤 馨さん（2年）、京極 啓君（2年）、大島俊彦君（2年）、遠藤亜希さん（2年）で構成された。1昨年の訪韓より1名増員しての訪韓となった。

18日12時30分、ソウルの仁川空港に到着した本学一行を、鄭 翰聖教授ほか学生が出迎えてくれた。その後、延世大学校歯科大学校舎内で歓迎式典が行われ、鄭 文圭延世大学校歯科大学学長をはじめ大学幹部および学生の盛大な歓迎を受けた後、歯科大学の学内および歯科病院の見学を行った。

19、20日に行われた学生の交流会議では、「医療と食文化」および「中高大学生における人間形成」という2つのテーマについて各大学交互にプレゼンが行われ、英語で活発に討議が行われた。また、延世大学の教授による特別講演が行われ、韓国の歯科大学教育の一端に触れることができた。

勉学以外の面においても韓国の様々な風俗・文化にも触れることができたといえる。観光プログラムでは、小グループに分かれソウル市内を観光、ナウミ島でのバーベキュー大会とスポーツ大会と多岐にわたって韓国文化を感じる事ができた。

また、本学の学生は2日目の夜を延世大学校の学生宅にホームステイをして過ごし、そこで学生同士友好を深め合ったのは勿論のこと、韓国の日常生活をより間近に感じることができる貴重な経験をした。

言葉の壁を超えて相互理解と友情を深めた、楽しくも有意義な学生交流の日々はあっというまに過ぎ、最終日である22日を迎えた。歓送式では、学生会歯科学生交流会局長の小島君が真心を込めてスピーチをし、最後の最後まで交流を深めることができた。その後、仁川空港に移動した本学一行は、この交流を得た仲間との別れを惜しみつつ午後4時30分無事帰国の途に着いた。

小島佑貴学生会歯科学生交流会局長

21回目を迎えた今回の訪韓では、滞在期間が例年より1日増えたことで前回の訪韓に比べ多くの事を両校の学生は学び、共有し、分かり合えたと思います。両校の学生間におけるコミュニケーションは、新たな視点で物事を考えさせられる良い機会となりました。非常に有意義で実りある交流会で、延世大学校による温かいもて

なしに心打たれるものがありました。

現在、両国における関係は年々改善されてはいるものの、歴史問題を初めとする多くの課題を抱えています。訪韓前も大規模なデモがあったりしたため、メンバーの中には不安を感じる者がいたかもしれません。しかし、空港の到着ロビーで私達を迎えてくれた際に彼らが満面の笑みで迎えてくれたことでその心配は消え去り、韓国を去る際には感極まるものがありました。ホームステイ先での心のもった歓迎、延世大学生の親切なガイド、歯科医療に対する誇りとモチベーションの高さ。どれも素晴らしい経験で感動しました。また韓国の歯科医療は急速な発展を遂げていることで、韓国国内だけではなく世界の歯科医療を意識していました。そこに日本の歯科医療がもっと意識し目指すべき道があるような気がしました。海外の医療と日本の医療は大きく違います。その違いを知ることはただ歯科医療を知るということだけではなく、人生観や価値観までも大きく変える機会でもあります。素晴らしいこの交流会がこれからもずっと続いていき、多くの学生にこのかけがえのない経験をしてもらいたいと思います。



記念品を受け取る小島交流局長（右）：平成20年8月18日（月）、延世大学校歯科大学



延世大学校歯科大学の正門前で記念撮影：平成20年8月19日（火）、延世大学校歯科大学



Dr.J.L Bootsの前で記念撮影する両校の学生：平成20年8月19日（火）、延世大学校歯科大学



韓国のピビンバを延世大学校の学生と一緒にほおばる高原君（右）：平成20年8月19日（火）、seoul in-sandong

■第40回歯学体報告会開催

第40回全日本歯科学学生総合体育大会報告会が、千葉校舎厚生棟1階食堂において9月10日(水)19時より、歯学体参加19部門のクラブ学生と教職員を集めて開催された。

まず始めに、各参加クラブが結果報告、並びに来年への抱負を述べ、野村昌史歯学体評議委員より、総合で3位入賞した旨報告があった。



歯学体参加学生に「祝辞」を述べる金子学長：平成20年9月10日(水)、千葉校舎厚生棟1階食堂

次に学長賞として「硬式庭球部」「陸上競技部」「スキー部」「ヨット部」が表彰され、その後、金子学長より祝辞をいただき、佐藤亨学生部長の音頭で乾杯をし、懇親会へとうつった。当日は、壁面に歯学体の写真がスライドショーで投影されており、参加学生は自分のクラブの写真が映されるたびに歓声をあげていた。



金子学長より「学長賞」を受け取る硬式庭球部員：平成20年9月10日(水)、千葉校舎厚生棟1階食堂

図書館から

■本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙・奥付に記載されているものに限定)

井出吉信 [他] 編 「Biological crown contour — 生体に調和する歯冠形態」医歯薬出版、2008

(歯科技工別冊)

井出吉信 [他] 著「基本から学ぶインプラントの画像診断」砂書房、2008

(阿部伸一、佐野 司、和光 衛、西川慶一 [他] 共著)

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のおりには、できましたらご寄贈のほどよろしくお願いたします。

■水道橋病院分館にて図書購入

このたび、水道橋病院分館では図書の充実を図るため、臨床向けの歯科関連図書を購入した。これらの図書は本館で整理し、5月の172冊に加えて9月末に残り150冊の図書を水道橋分館書架に排架した。内訳は図書312冊、雑誌10冊。なお、水道橋の先生方へは千葉校舎図書館の図書も学内便等で貸出サービスを行っている。

■平成20年度蔵書点検結果報告

図書館では、7月に本館、市川総合病院分館、水道橋病院分館の蔵書点検を実施した。このほど、点検結果がまとまり、今年度新たに不明図書があった。これらの図書の多くは、手続きをとらずに借り出している図書と思われる。図書館資料は、学生・教職員等の利用者全てで共有し、永く保存していく大学の大切な財産であるため、利用者のご理解、ご協力をお願いしたい。

〈大学史料室から〉

■血脇守之助先生揮毫の掛軸ほかの寄贈を受ける(1)

平成20年5月、同窓会副会長の神谷龍司先生(昭和40年卒 愛知県刈谷市で開業)から血脇守之助先生の書、掛軸一幅「天衣無縫」および佐藤運雄先生の書「恭黙思道」をご寄贈いただいた。これらは、神谷先生の恩師でもある黒須一夫博士(昭和28年東歯卒 元東京医科歯科大学講師、元愛知学院大学教授、元日本小児歯科学会会長、平成8年8月19日ご逝去)が所有されていたもので、

後に黒須先生の奥様のアイ子先生（東洋女子歯科医専卒）から頂いたという思い出深いものである。史料室で大切に保管し、広く閲覧に供していきたい。



血脇先生筆の掛け軸と神谷龍司先生近影：平成20年9月10日（水）、水道橋校舎にて

■血脇守之助先生揮毫の掛軸の寄贈を受ける(2)

平成20年8月、千代田区神田神保町で開業されている春原 肇先生（昭和35年卒）から血脇守之助先生揮毫の扁額二幅「文質彬彬」「楽々荘」、および掛軸一幅をご寄贈いただいた。これは血脇先生がご尊父の春原定栄先生（大正7年卒）のために書かれたものであるが、雅号がそれぞれ違っている。血脇先生は天籟（血天籟）の雅号を自らつけておられた。後には半仙・血半仙（半分は仙人に近づいた意）と号された。貴重な史料であり大切に保管し、後世に伝えたい。



血脇先生揮毫の扁額と春原肇先生近影：平成20年8月

■卒業アルバムの寄贈を受ける

平成20年6月 愛知県で開業されていた小林倉吉先生（昭和5年卒 平成18年5月1日ご逝去）の卒業アルバムをご寄贈いただいた。大学の歴史を調べる際にも有用であり、大切に保管したい。

ご子息《長男・崇志（故人・昭和35年卒）、次男・博（昭和40年卒）、三男・伯男（昭和40年卒）、四男・朗男（昭和50年卒）、五男・利行（松本歯大卒）》の五人の先生ご相談の上で、大学での資料として保存頂きたいとのことであった。

古い年度のアルバムは未収集のものが多く、今後とも同窓の皆様のご協力をお願いいたします。



寄贈された卒業アルバム（昭和5年）

■写真の寄贈を受ける

平成20年8月、群馬県高崎市在住の正木光児先生（昭和20年9月卒）から古い山岳部の写真2枚（原版はガラス乾板）をご寄贈いただいた。昭和4年12月3日に東京歯科医専山岳部発会式が第一示説室で行われた。写真はその当時のもので、中央が福島秀策先生、右側の頬杖をついているのが河邊清治先生のようなのである。大変貴重な写真であり、大切に保管したい。



正木光児先生寄贈ガラス乾板による山岳部写真

歯科衛生士専門学校ニュース

■学校説明会開催

平成21年度の東京歯科大学歯科衛生士専門学校への入学希望者を対象とした学校説明会が、平成20年5月24日(土)の午前、および7月31日(木)と8月28日(木)の両日に、午前、午後の2部に分けて行われた。この説明会は、歯科衛生士という職業と本校の特徴を理解してもらい、できるだけ多くの受験生を募る目的で、実施しているものである。5月の第1回目には14名の志願予定者と2名の保護者の参加、7月の第2回目には55名の志願予定者と21名の保護者の参加があり、8月の第3回目には31名の志願予定者と11名の保護者の参加があったが、参加者数としては昨年の同時期に行った学校説明会と比べて若干の減少が見られた。本校では本年度から、社会人特別選抜枠を設けていることから、7名の社会人の参加もみられた。

説明会では、歯科衛生士の職務・将来性、本校の特色、学生生活などについて映像を交えて紹介した後、3年生の学生たちによる最新の設備を用いた臨床基礎実習のデモンストレーション

を行った。ついで学生たちとともに、大学の各施設、千葉病院を見学し、最後に来年度入学試験に関する説明を行った。本学が歯科大学に併設されていることのメリットや充実した設備と講師陣、3年制によるレベルの高い教育と、本年度の卒業生の約半数が、大学病院あるいは総合病院、事業所等へ就職したことなどを伝え、参加者の入学の意欲を高めることができたと感じられた。

今回の学校説明会から、早い時期の5月に第1回を行うと共に、志願予定者の質問を個別に受けるため学校説明会終了後に、入学試験やカリキュラム、学校生活、学費・奨学金、歯科衛生士の業務・授業内容、在校生との交流、などの各ブースに分かれて相談会を開催して、細かな対応を行った。

学校説明会終了後のアンケートでは、実際の学校施設を見学すると共に講師や学生と接することができたことで、学校の雰囲気がよくわかり、参加して良かった、との意見が多く聞かれた。

創立120周年記念事業

■マスコットキャラクター愛称募集の表彰

平成20年9月5日(金)に開催された第4回創立120周年記念事業実行委員会において、本事業のマスコットキャラクター愛称募集の表彰が行われた。



金子学長より表彰状を授与される篠崎センター長：平成20年9月5日(金)、水道橋校舎特別会議室

当日は愛称「ビバノスケ」の命名者である角膜センタースタッフを代表して、篠崎尚史センター長と浅水健志コーディネーターにご出席いただき、本委員会の実行委員長である金子 譲学長から表彰状及び賞品が授与された。



表彰後の記念撮影(右から篠崎センター長、熱田理事、金子学長、浅水コーディネーター)：平成20年9月5日(金)、水道橋校舎特別会議室

海外交流

■「日中歯科医学大会2008」

中国屈指の古都「西安」にて開催。

本学から総勢50名が参加！

日中歯科医学大会2008（中国側の名称：第4回中日口腔医学大会）が中華人民共和国陝西省の省都西安市で9月27日（土）～29日（月）の3日間の日程で開催された。今大会は、本学姉妹校の第四軍医大学口腔医学院院長の趙 欽民教授が組織委員会委員長を務められ、第四軍医大学口腔医学院が大会の運営にあたることから、本学挙げて協力することとなり、金子 讓学長の発意で各講座・研究室に積極的に参加を呼びかけたところ、21講座・研究室から50名（日本側参加者総数は、同伴者を除き207名）、ポスター発表44演題（総数326題）の応募があった。

大会は9月27日（土）夕刻の歓迎晩餐会（China Night）に始まり、28日（日）は午後1時半から開会式と日中各2題、計4題の特別講演が行われ、午後7時から日本側主催の晩餐会（Japan Night）が開催された。また、同夜8時半からは趙院長はじめ本学との関係が深い第四軍医大学口腔医学院の先生方9名をお招きし、本学からの参加者に慰労の意を込めた金子学長主催の懇親会が持たれた。

29日（月）は午前4題、午後3題の特別講演（日本側2題、中国側5題）の他、午後1時から3時までポスター発表の質疑が行われ、午後5時半からの閉会式をもって3日間の全日程を終了した。今大会では、本学客員準教授の王 小競児童口腔科副教授が開・閉会式や中国側特別講演の日本語通訳を務めるなど、本学留学経験のある口腔医学院の

先生方の活躍がみられた。午後8時からは大会関係者を招待した趙院長主催の感謝の夕食会が持たれ、趙院長の好意で本学からの参加者全員が招待された。席上、金子学長が姉妹校代表の一人として挨拶され、今大会が大成功裡に終了したことの祝意と、本学参加者全員の招待に感謝の意を込めた謝辞を述べられた。

今大会は、本学と第四軍医大学口腔医学院との姉妹校関係は、なお一層深い絆で結ばれた稔り多い成果を得られ、協力いただいた各講座・研究室に深く感謝する。なお、10月初旬には趙院長から金子学長宛に、今大会に対する本学の協力に対し深甚な礼状が届けられた。（文責：薬師寺 仁）

「日中歯科医学大会2008」に参加して

口腔科学研究センター・歯科理工学講座

吉 成 正 雄

日中歯科医学大会2008（Sino-Japanese Conference on Stomatology 2008）は、平成20年9月27日（土）～9月29日（月）、中華人民共和国陝西省西安市、古都新世界大酒店で開催された。主催団体は、日本側；日本歯科医師会、日本歯科医学会、中国側；中華口腔医学会、中国医師協会口腔医師分会であり、メインタイトルは「－最新の歯科臨床－歯科分野のティッシュエンジニアリング」であった。

9月27日（土）のWelcome Receptionに引き続いて、28日（日）、29日（月）の両日に特別講演（日本側から4演題、中国側から7演題）が行われた。歯の再生、細胞治療、インプラントに再生療法の位置づけ、歯科疾患予防と健康増進、歯周疾患治



第四軍医大学口腔医学院前にて：平成20年9月29日（月）、中国西安市



趙院長（左）と王児童口腔科副教授（右）とともに：平成20年9月29日（月）、中国西安市

療、矯正治療の診断法、CAD/CAMによる顎顔面補綴、など内容は多彩であった。

9月29日(月)にはポスター討論(326演題)が2会場に分けて行われた。このうちの44演題は東京歯科大学からのものであり、今回の日中歯科医学大会に対する本学の貢献度の大きさを物語っていた。この間、28日(日)にはJapan Nightおよび金子学長主催懇親会、29日(月)には第四軍医大学口腔医学院主催の歓迎パーティ、さらには第四軍医大学口腔医学院の見学と、息もつかせぬハードスケジュールであった。

今回の西安の学会では、特に日本に留学経験の

ある第四軍医大学の先生方が、真摯にそして心暖まる対応をして下さいました。これは、本学が第四軍医大学口腔医学院と平成17年9月に姉妹校協定を締結したと無縁ではなく、その成果が結実しつつ証であると考えられます。今後は、更なる発展を目指して、共同研究など実質的な交流が必要であると感じました。

最後に、本国際学会に参加する機会を与えて下さいました関係の諸先生方に感謝申し上げるとともに、今回の出張で得た数々の知見を研究、教育に生かしていく所存です。

平成20年度科学研究費補助金決定

平成20年度科学研究費補助金は平成20年6月13日付で文部科学省および日本学術振興会から配分額の決定が通知された。

本年度、本学に交付される科学研究費補助金の研究種目別決定額および研究者別交付額は別表の通りである。

平成20年度科学研究費補助金交付決定一覧

平成20年8月4日現在

研究種目	件数	交付決定額(千円)		
		直接経費(研究費)	間接経費	合計
基盤研究(A)	1	4,300	1,290	5,590
基盤研究(B)	3	10,900	3,270	14,170
基盤研究(C)	23	26,700	8,010	34,710
萌芽研究	2	2,100		2,100
若手研究(B)	20	21,000	6,300	27,300
合計	49	65,000	18,870	83,870

科学研究費補助金 平成20年度新規採択課題の要旨

基盤研究(C) 宮内 潤 教授
「ダウン症児における一過性骨髄増殖症の自然治癒機構に関する分子・細胞生物学的研究」

ダウン症新生児における一過性骨髄増殖症は自然に治癒する特殊な急性白血病で、胎児の肝臓にて発症すると考えられている。自然治癒の機序は不明であるが、肝臓における胎児造血から骨髄における成人造血への移行との関係が考えられる。この疾患における白血病細胞は造血因子にて好塩

基球と肥満細胞系統に分化を誘導しうること、遺伝子異常にもとづく異常なGATA-1蛋白の発現が分化誘導の際に減少すること、白血病細胞の増殖が胎児肝由来の間質細胞に依存していることなどを筆者は明らかにした。これらの結果は白血病細胞の増殖と分化が造血微小環境の変化に大きく影響されることを示すものである。本研究ではこれらの点をさらに詳細に解析し、小児がんの自然治癒というきわめて特殊な現象の原因とメカニズム

を明らかにする。さらにその成果を広く応用することにより、成人のがんをも対象とした新しいがん治療法を開発する。

基盤研究 (C) 田中 一郎 准教授
「ビデオ画像の3次元的表情解析による顔表情運動障害の診断・治療支援システムの開発」

顔表情運動障害の程度を評価するために、主観的評価法であるHouse-Brackmann法や柳原法などが広く用いられているが、細かな表情運動や外科治療後の特定領域の微細変化の評価には適していない点が問題であった。そこで本研究では、臨床現場で撮影したビデオ画像を基にしたコンピュータ解析による3次元的表情解析システムを、慶応大学理工学部と共同で構築し、顔面神経麻痺などの顔表情運動障害の診断や治療効果の評価、手術計画支援などへの臨床応用を行ない、さらには標準的な評価システムとして国内外へ普及させることを目的としている。本システムは臨床現場で短時間に簡便に使用でき、安価・小型・高精度・定量性・簡便操作性・即時性などの利点を有した、実際の臨床に应用可能な優れた客観的評価法であり、病的共同運動の診断・治療評価、顔面神経麻痺のリハビリテーション、顔面痙攣（診断・治療評価）、美容外科・歯科口腔外科領域の手術（術後評価）、皸などの解剖生理、表情の心理学的解析などへの臨床応用も可能である。

基盤研究 (C) 加藤 哲男 准教授
「歯周病原性バイオフィーム形成因子の分子生物学的解析と機能性タンパク質による抑制」

歯周病は、口腔内バイオフィームであるデンタル・プラーク中に生存する歯周病原細菌が原因となる感染症である。本研究では、口腔内バイオフィームを対象に、従来の個々の病原因子の生物学的解析を踏まえた上で、バイオフィーム形成を分子生物学的に解析し、さらに形成を阻止するような機能性タンパク質について検討を加える。本研究によって、口腔内バイオフィーム形成に関わる因子を明らかにし、またシスタチンやガレクチンなどのタンパク質の生体防御における機能を明らかにできるものと考えている。分子レベルでの解明を、個体レベルにまで広げた総合的なアプローチによって、実際に口腔保健への応用へとつ

なげていきたい。

基盤研究 (C) 村松 敬 講師
「マイクロアレイで検出された歯牙形成遺伝子候補は本当に歯牙形成に関与しているか？」

歯牙形成に関与するが、出生後の歯髄で消失してしまう遺伝子が何であるのかを検証するために、胎生16日のマウス臼歯歯乳頭と生後3日の歯髄の遺伝子を比較検討したところ、Aldh1a2, PlexinC1, Adamts4という3つの遺伝子が生後3日の歯髄で減少していることを明らかとし、これらを歯乳頭に潜在する歯牙形成遺伝子の候補と考えた。しかしながら、これらの候補遺伝子が、本当に歯牙形成に関与しているのかは明らかとはなっていない。本研究は、生後3日の歯髄細胞に上記遺伝子を歯髄細胞内に導入して、出生前の歯乳頭の状態を回復させ、これらと歯原性上皮と、歯牙形成への関与を検証する研究である。

基盤研究 (C) 橋本 貞充 准教授
「唾液腺の傍細胞経路による唾液分泌調節機構の解明とその活性化」

唾液腺からは、さまざまな唾液蛋白とともに大量の水が分泌される。この唾液の分泌のしくみについては、一般には唾液腺の腺房細胞内からの分泌（経細胞輸送；trans-cellular pathway）によると考えられてきているが、腺房細胞の細胞間隙を通過する経路（傍細胞輸送；para-cellular pathway）もあることがわかってきた。

隣接する細胞同士の細胞膜を貫通して網目状に結合させ、腺腔側の外部環境と結合織側の内部環境とを分けるバリア機構を担うのが、タイト結合とよばれる構造で、唾液の成分のほとんどを占める大量の水やイオンは、血管から組織中に移行し、それらが腺房細胞の細胞間隙を通り、このタイト結合で調節を受けて腺腔側へ移行して唾液となると考えている。

この研究の目的は、新鮮な唾液腺細胞を用いた急速凍結切断法や免疫電顕法などにより、細胞骨格や細胞膜上の蛋白の変化を形態的にとらえていくことにより、このタイト結合を介した傍細胞経路による唾液分泌のメカニズムを明らかにしていくことである。

この傍細胞輸送経路を調整することで、唾液分

泌を促進し、将来的に、口腔乾燥症の治療に寄与する基礎的研究となることをめざしている。

基盤研究 (C) 渋川 義幸 講師

「歯牙発生過程における近遠心頬舌側決定因子：歯胚Ca信号の非対称性分布と制御機構」

上下歯牙の咬頭の対咬関係は、上下顎の各歯牙の厳密な解剖学的形態に依存する。そして、その歯牙形態の発生パターンは、歯牙発生過程における厳密な制御を受けていると考えられる。本申請研究では、歯牙発生過程における近遠心頬舌側パターン発生決定因子をCaイオン分布の非対称性という分子細胞レベルでの観点から明らかにする。また、非対称性Caイオン分布の結果としての各歯牙の厳密な咬合接触経路による下顎機能運動の制御の成り立ちを明らかにする。得られた知見を応用し、咬合学的に機能的な歯牙再生のための細胞工学的因子を明らかにする。

基盤研究 (C) 櫻井 薫 教授

「咀嚼時の咬合力とストレス緩和効果」

近年、ブラキシズムおよびチューイングがストレス反応の一つである視床下部下垂体副腎皮質系に影響を及ぼすことが報告されている。また我々はストレス負荷後にチューイングおよびクレンジングを行うことが視床下部下垂体副腎皮質系の反応を抑制することをヒトにおいて明らかにした。

そして、これまでの研究で咀嚼することでストレスが緩和することも解明した。その結果をもとに本研究では、咀嚼力の違いがストレス緩和効果に影響を及ぼすかを明らかにし、その結果を国民の咀嚼指導に応用する。

基盤研究 (C) 三宅菜穂子 助教

「歯冠用硬質レジンへの唾液タンパクの吸着をコントロールできるのか」

本研究は、レーザードップラー法を用い吸着前後のゼータ電位を測定することによって表面荷電密度の変化が認められ吸着量を計算できるという原理に基づき、補綴材料の開発と関連してタンパクや酵素など生体高分子の吸着性の評価、洗浄によるタンパク質の剥離、コーティングによる吸着防止などを検討するものである。今回、歯冠用硬質レジンとアパタイトについて、電気泳動装置を

用いた試料片表面へのタンパクの吸着実験を行い、吸着実験前後のゼータ電位からタンパクの吸着状態を比較検討し、それと平行して接触角を測定し、補綴材料表面の疎水性を定性的に評価し、タンパクや酵素など生体高分子の吸着性を評価し、新しい歯冠用硬質レジンの開発に貢献していきたい。

基盤研究 (C) 武田 友孝 准教授

「咬合干渉が情動反応に及ぼす影響」

実験的咬合干渉および咬合の是正が情動反応に及ぼす影響を、前頭前野の脳神経活動を近赤外線イメージング装置OMM-2001 NIRStationにて、自律神経系機能の指標としての心拍間変異度をハートレーターSA-3000Pにて、免疫系の指標として唾液のコルチゾール濃度を、心理的指標としてSTAIの状態不安尺度を用いてそれぞれ計測する。

これらを解析することにより、顎口腔系の異常によるストレスへの影響をより明確にすることができ、歯科分野における疾患は、顎口腔系のみにとどまるものではないことが示唆できるものと考えられる。また、医科分野においてこれまで不定愁訴として取り扱われてきたような症状、また治療が困難であった疾患等の原因の解明、治療の一助となり得るのではないかとと思われる。

基盤研究 (C) 矢島 安朝 教授

「インプラント周囲口腔粘膜は癌化しやすい！」

インプラント治療は、すでに欠損補綴の一手段としての地位を確立し広く用いられている。しかし、近年、インプラント周囲粘膜からの発癌の臨床報告が見られ、その成因や詳細は不明である。インプラント治療は今後さらに高い需要が見込まれている現在、発癌に関する問題は早急に結論を出さなければならない課題である。そこで私たちは、「インプラント周囲粘膜部は活発な細胞分裂を繰り返している」および口腔癌の特徴である「field cancerization」の2点から「インプラント周囲口腔粘膜は癌化しやすい」という仮説を立て、これを扁平上皮癌の発癌モデルを用いて、病理組織学的、分子生物学的に解析し、発癌率を統計学的に証明したいと考えている。

基盤研究 (C) 櫻井 学 講師

「鎮静・催眠からの回復促進効果に対するアデノシン受容体の関与」

麻酔のメカニズムには、GABA作動性でGABA受容体を介した抑制作用を増強する抑制性経路と、グルタミン作動性でNMDA受容体に関与した興奮作用を抑制する興奮性経路があると考えられている。我々はこれまでアデノシン受容体の刺激・抑制が抑制性経路、興奮性経路に影響を与えている可能性を示してきた。また、鎮静薬や麻酔薬の血中濃度が低下しても、鎮静・催眠状態が持続し、血中濃度と鎮静・催眠状態に相関が認められないことをこれまで報告してきた。この研究では、アデノシン受容体の刺激により鎮静・催眠状態が増強・延長され、アデノシン受容体の拮抗により抑制されることを示し、鎮静・麻酔薬の血中濃度低下後の鎮静・催眠作用にアデノシン受容体が関与していることを明らかにする。臨床的には、アデノシンの拮抗薬を用いることにより、精神鎮静および全身麻酔からの安全性の高い迅速な回復が可能となる。

基盤研究 (C) 渡邊 裕 講師

「ミラーニューロンは嚥下障害を改善するか：マルチモダリティ脳計測による解明」

我々はこれまで随意的嚥下の誘発に関する脳皮質活動について脳磁図計を用いて解明してきた。本研究では、脳磁図計に加えfMRIと新しいMRIの応用手法である拡散スペクトラムイメージングを用いたヒト脳マルチモダリティ計測を行なうことにより、ミラーニューロンシステムが嚥下運動誘発のための脳皮質活動にどのように影響するのかを検証することとした。

本研究によりマルチモダリティ脳計測の解析法が確立されれば、ミラーニューロンシステムの随意運動への影響の検索に留まらず、嚥下障害に効果があると近年報告されている種々の薬剤に対する脳内活動の評価も可能になると考えられ、高齢者の「誤嚥性肺炎」の予防やQOL向上に大きく貢献できるものと考えられる。

若手研究 (B) 富田真智子 助教

「リング移植を用いた角膜上皮創傷治癒モデル」

家兎角膜に金属リングを縫着することで再現性

の高い遷延性角膜上皮欠損モデル、すなわち角膜上皮の創傷治癒モデルを作成する。さらに角膜上皮細胞の前駆細胞であるtransient amplifying cell (TA細胞)の予備能を検討する。リング移植後の角膜を組織学的に検討し、神経栄養欠乏性角膜上皮欠損のモデルとなりうるかを検証する。今回の科研費申請ではモデル作成を主な目的としているが、モデルが完成すれば角膜上皮創傷治癒に対する薬剤の治療効果の判定・評価に役立たせることが可能となる。さらに将来的には、培養角膜上皮シート移植などの評価に使用していく予定である。

若手研究 (B) 佐々木穂高 レジデント

「歯牙発生で減少した未解明遺伝子の発現・機能解析」

マウスの歯乳頭では、出生前後間で歯牙形成能が消失することが知られている。我々は、過去にマイクロアレイを用いて既知遺伝子群からaldh1a2, adamts4, plxnc1が減少することを報告した。本研究では同データベースより、既知遺伝子群よりも著名に減少した未解明遺伝子群を検索し、発現・局在および機能解析を行う。これらの未解明遺伝子群内には既知遺伝子と異なり、他臓器には発現していない歯牙固有の未分化マーカーが含まれると考えられる。これにより将来的に、採取量に限界がある歯髓組織内の組織幹細胞を効率良く採取する方法や、第三大臼歯歯胚内の歯乳頭細胞の未分化を維持し増殖させる方法を確立させ歯牙再生への一端を担うことが出来ると考えられる。

若手研究 (B) 天谷 哲也 講師

「2波長発振レーザーは、齶蝕治療に有効か？」

研究に用いる試作レーザー発振装置(2波長発振レーザー:モリタ製作所、京都)はNd:YAGより若干長い波長の1.4 μ mからEr:YAGの波長域を超える4.0 μ mの範囲において波長を連続的に変えて出力することができ、また異なる2つの波長域のレーザーを取り出すことが可能である。この装置で発生する近赤外領域の両波長を至適条件で使用することにより、Er:YAGの波長2.94 μ mの硬組織切削能に加え、副波長としての新機能を一度に得ることが可能である。本研究では硬組織切削に有効な照射条件を切削や殺菌効果の視点から検討する。

若手研究 (B) 中澤妙衣子 助教

「二酸化チタン含有漂白剤の漂白効果について」

近年オフィスブリーチング剤として研究開発され、臨床でも様々な場面で応用されるようになってきた二酸化チタン含有低濃度過酸化水素水漂白剤について、その効果と安全性を検討した。現在までの研究により、従来の高濃度過酸化水素水漂白剤と同様の使用法でほぼ同程度の効果を表すことが報告されている。そのため、我々はより安全性の万全な状態を維持したままで漂白効果をさらに引き出す方法や補助剤、前処理などの検討、また、無髄歯への応用などについて検討した。

今回我々が使用した漂白剤は、コンポジットレジン重合用照射器の可視光でも十分効果を表すことができるよう改良されているため、特別な照射器が必要なわけではなく、手軽にかつ嚴重な防湿も必要なく漂白できる。かつ、比較的短時間で十分な漂白効果を表すことができるため、今後臨床でも広く応用されてくると思われる。

若手研究 (B) 松永 智 助教

「生体アパタイトの配向性をも考慮に入れた顎骨の高分解能・大規模有限要素解析」

マイクロCTによる高分解能撮像分解能のままの要素寸法での大規模FEMにより、顎骨骨梁構造が力学的に担う役割について解明する。均質化法という応用数学手法を用いることで、今まで評価することができなかった骨梁の異方性を正確に予測できる。さらに、生体アパタイト配向性を考慮することでナノメートルオーダーの要素をも盛り込んだ世界初の顎骨のマルチスケール解析が実用化されるはずである。

若手研究 (B) 田坂 彰規 助教

「咀嚼回数がストレス緩和効果に影響を及ぼすか？」

近年、全身機能に及ぼす咀嚼の重要性に関する報告が注目されている。その中でこれまで「咀嚼によるストレス緩和」についての様々な研究がなされてきた。咀嚼運動は中枢のパターンジェネレーターによって制御され、同一食品を咀嚼した際のリズムを決定する因子である咀嚼回数、咀嚼速度、運動パターンは個人によって異なる。したがって、このような咀嚼時の条件がストレス緩和

に影響を及ぼす可能性が考えられる。本研究では、これらの条件のうち咀嚼回数に着目し、咀嚼回数の違いがストレス緩和効果に及ぼす影響を明らかにすることを目的とする。本研究により、ストレス緩和に有効な咀嚼時の条件を明確することで咀嚼指導に役立てることを目指している。

若手研究 (B) 武本 真治 講師

「口腔内をシミュレートしたチタン合金の耐食性評価方法の確立」

本研究は、口腔内で使用するチタン合金のフッ化物や過酸化物による耐変色性および耐食性を評価する方法の提案とフッ化物や過酸化物に対して優れた耐変色性および耐食性を有する新規チタン合金の設計指針を提案する。そのために、チタンに添加する元素によるフッ化物や過酸化物に対する耐変色性や耐食性の効果を明らかにし、口腔内を想定したタンパク質の吸着・脱離の挙動を調べることによりチタン合金の変色・腐食メカニズムへの関与を探索する。そのようにして得られる結果は、歯科臨床へ応用できる新規チタン合金の設計指針を示すことができると考えている。

若手研究 (B) 山本 信治 助教

「口腔癌におけるマッピングアレイを用いた全染色体上の構造異常の解明」

従来行ってきた各染色体上のマイクロサテライト解析に関する研究の延長上に発展させたものであり、全染色体上の11万6204か所のゲノム領域を網羅できる。研究の発展のさせ方として、極めて理想的な展開であり有望である。DNAマッピングアレイ解析を用いて、従来不可能であった、100名の口腔癌患者の全染色体上の構造異常を、数百～数千の口腔癌に関与する新規未知癌抑制遺伝子座位が一度に同定することを可能にした。本研究はこれまで行われてきたゲノム解析とは想像を遥かに超えるほどの情報量が得られ、新探索方法として確実に実績が上げられ、体内に潜む再発転移細胞の早期発見に結びつけられれば、口腔癌の再発・転移の診断・治療の向上に大きく貢献される。

若手研究 (B) 池田 千早 助教

「口腔扁平上皮癌におけるアポトーシス阻害遺伝

「子survivinの発現について」

国内外において、survivinの発現については、食道癌をはじめ、胃癌、肺癌、大腸癌など種々の悪性腫瘍で検索されており、その過剰発現が報告されている。また、近年ではDNAのメチル化によりその発現が抑制されているとの報告もなされた。しかしながら、口腔領域での検索はほとんどなされていないのが現状である。本研究では、口腔扁平上皮癌におけるsurvivin蛋白およびmRNAの発現、また、メチル化との関係について検索・解明することにより、将来的にはsurvivinのアポトーシス阻害を抑制することで、癌細胞をアポトーシスへ導き、癌細胞抑制としての遺伝子治療に貢献できるであろう。本研究の結果は、口腔癌における診断や治療において新たなツールを見出すのに、有意義なものと考えられる。

若手研究 (B) 衣松 高志 助教

「接着分子応用による付着上皮接着機構制御」

本研究は歯周炎炎症下での歯-歯肉上皮間接着の破壊過程観察及び *in vitro*における接着タンパク制御下での歯肉上皮細胞の動態を観察することで、歯肉上皮の歯への接着機構の解明を行おうとするものである。科研費の最終年度では実際に実験的に誘導したマウス歯周炎モデルにおいて接着タンパク制御による治療に対する変化の観察を行う。臨床への応用展望としては接着タンパクの応用により、慢性歯周炎患者に対する歯周治療時の早期治療を引き起こすこと、また、一般的長い上皮性付着をその治療形態とする歯周外科手術（フラップ手術）において、これを応用することにより治療を阻害する歯肉上皮のダウングロースを制御し結合繊維性付着を誘導することが考えられる。

若手研究 (B) 稲垣 覚 助教

「複数菌種による歯周病原性バイオフィーム内における細菌間コミュニケーションの解明」

歯周病原菌 *Porphyromonas gingivalis*, *Tannerella forsythia*, *Treponema denticola*はred complexと呼ばれ、共生しながらバイオフィームを形成し、歯周組織に傷害性を示している。このような細菌の相互作用は歯周局所における細菌間相互の情報交換によりコントロールされている。本研究ではRed complex間の情報交換に関与する菌の遺伝子発現

の変化や発現変化をつかさどる細胞内signalを分子生物学的手法により解析する。歯周病ワクチンはこれまで混合感染であることより、実現は難しいとされているが、細菌間のコミュニケーション機能を抑制出来れば、従来のワクチンとは異なった新しい予防手段を得ることになり、歯周病の予防に新しい大きなアドバンテージをもたらすことになる。

若手研究 (B) 丸山 澄 助教

「法歯学的資料からのDNA多型による個人識別と人種推定のデータベースの作成」

ミトコンドリアDNA (mtDNA) 多型は個人識別のみならず人種の推定にも応用可能となる事が判明している。本研究では、人類の移動においてマレー周辺は重要な地域であり、東南アジアの情報は人種推定において極めて重要であることからマレー人について調査を行うこととした。また我々の元実際に依頼されるDNA検査は状態が悪く微量な資料であることが多く、今回研究対象とするものは抜去歯から抽出したDNAでありこれを変性DNAとして用いている。本研究は日本人・マレー人のmtDNAおよびSTR多型検査を行うことでアジアにおける人種の広がりが見明らかとなり、現在国際化の影響から検査対象者が日本人か否か、さらには人種の識別についても求められている状況に対し犯罪の解決・予防に多いに寄与できるものと確信している。

萌芽研究 小田 豊 教授

「歯科用CAD/CAMから三次元造形への展開」

歯科用CAD/CAM技術が普及しつつあるものの、切削加工を主体としているために、形状が限定され、局部義歯の様な複雑な補綴物の製作は困難である。また、ブロックからの削り出しによる多量の切削粉の排出、切削工具の摩滅による精度の低下、長い加工時間など克服すべき課題が残されており、歯科用CAD/CAMの発展には新たな加工方法の創出が求められている。本研究はラピッドプロトタイピング (Rapid Prototyping) 技術と歯科用CAD/CAMを組み合わせることによって、現在の歯科用CAD/CAMが抱えている問題点を克服すると共に、この技術による新たな歯科医療技術と材料の開発を目的としている。

■平成20年度科学研究費補助金研究者別交付一覧

平成20年8月4日現在

研究種目	研究代表者氏名	20年度 新規 採択者	交付決定額 単位(千円)	研究課題
			直接経費	
基盤研究 (A)一般	井上 孝 教授		4,300	機能性インプラントのためのセメント質誘導ペプチド創製
基盤研究 (B)一般	吉成 正雄 教授		5,000	薬物送達システムを利用した生体多機能化による即時荷重インプラントの開発
基盤研究 (B)一般	小田 豊 教授		2,100	歯科用合金の耐食性評価のための新たな電気化学的アプローチ
基盤研究 (B)一般	新谷 誠康 教授		3,800	常染色体エナメル質形成不全症家系の原因遺伝子の同定と遺伝子診断
基盤研究 (C)一般	佐藤 裕 准教授		700	もう一つのヒト口腔原因菌で遅れている遺伝子機能解明への一つのアプローチ
基盤研究 (C)一般	山本 康人 助教		700	心内膜炎病原因子候補 <i>S. mutans</i> のコラーゲンアドヘシ (Cnm) の機能解明
基盤研究 (C)一般	高橋 賢 講師		600	咬合接触状態の変化は中枢制御機能に影響を与えるか
基盤研究 (C)一般	兼子 智 講師		1,200	生殖補助医療における精子の品質管理—酸化的DNA損傷の回避とテロメア保護
基盤研究 (C)一般	阿部 伸一 准教授		700	筋機能再活性化に関与する筋幹細胞分化過程解明のフロンティア
基盤研究 (C)一般	石原 和幸 教授		1,200	歯周病原性バイオフィーム形成における細菌間相互作用のプロテオミクス解析
基盤研究 (C)一般	澁川 義宏 准教授		800	遺伝子発現解析による下顎頭の加齢的变化と変形性顎関節症の病態の解明
基盤研究 (C)一般	下野 正基 教授		900	歯肉付着上皮の接着・細胞移動の分子機構
基盤研究 (C)一般	和光 衛 准教授		600	歯科用コーンビームCT画像に基づくインプラント周囲骨のクリニカルバイオマクス
基盤研究 (C)一般	井出 吉信 教授		500	歯科インプラントにおける偶発症抑止のための顎骨内部構造の解析
基盤研究 (C)一般	松坂 賢一 准教授		700	口腔エイジング解析によるリジュヴェネーション
基盤研究 (C)一般	宮内 潤 教授	○	1,400	ダウン症児における一過性骨髄増殖症の自然治癒機構に関する分子・細胞生物学的研究
基盤研究 (C)一般	田中 一郎 准教授	○	1,700	ビデオ画像の3次元的表情解析による顔表情運動障害の診断・治療支援システムの開発
基盤研究 (C)一般	加藤 哲男 准教授	○	1,100	歯周病原性バイオフィーム形成因子の分子生物学的解析と機能性タンパク質による抑制
基盤研究 (C)一般	村松 敬 講師	○	1,700	マイクロアレイで検出された歯牙形成遺伝子候補は本当に歯牙形成に関与しているか?
基盤研究 (C)一般	橋本 貞充 准教授	○	1,100	唾液腺の傍細胞経路による唾液分泌調節機構の解明とその活性化
基盤研究 (C)一般	渋谷 義幸 講師	○	2,400	歯牙発生過程における近遠心類舌側決定因子: 歯胚C a 信号の非対称性分布と制御機構
基盤研究 (C)一般	櫻井 薫 教授	○	1,600	咀嚼時の咬合力とストレス緩和効果
基盤研究 (C)一般	三宅菜穂子 助教	○	900	歯冠用硬質レジンへの唾液タンパクの吸着をコントロールできるのか
基盤研究 (C)一般	武田 友孝 准教授	○	2,100	咬合干渉が情動反応に及ぼす影響
基盤研究 (C)一般	矢島 安朝 教授	○	1,700	インプラント周囲口腔粘膜は癌化しやすい!
基盤研究 (C)一般	櫻井 学 講師	○	1,100	鎮静・催眠からの回復促進効果に対するアデノシン受容体の関与
基盤研究 (C)一般	渡邊 裕 講師	○	1,300	ミラーニューロンは嚥下障害を改善するか? マルチモダリティ脳計測による解明
若手研究 (B)	吉田 悟 客員講師		1,100	角膜実質幹細胞による実質細胞外マトリックスの再生
若手研究 (B)	服部 雅之 講師		700	三元合金化による新しい歯科铸造用チタン合金の開発
若手研究 (B)	澁井 武夫 助教		200	口唇裂・口蓋裂におけるインプリンティング遺伝子の発現変化を調べるプロジェクト
若手研究 (B)	神尾 崇 助教		100	X線CTおよび非接触型三次元計測装置より得た顎顔面軟組織形状の統合・分析・評価
若手研究 (B)	村上 聡 助教		1,700	炭酸ガスおよび半導体レーザーによるオーラルアンチエイジング
若手研究 (B)	田原 靖章 助教		1,200	クレンジングはストレスを緩和するのか?
若手研究 (B)	薬師寺 孝 助教		1,200	口腔粘膜疾患における拡大内視鏡を応用した診断法の確立

研究種目	研究代表者氏名	20年度 新規 採択者	交付決定額 単位(千円)	研究課題
			直接経費	
若手研究(B)	大久保真衣 助教		500	MR画像上での予測因子発見プロジェクトー嚙下機能低下の早期発見に向けてー
若手研究(B)	富田真智子 助教	○	1,400	リング移植を用いた角膜上皮創傷治癒モデル
若手研究(B)	佐々木穂高 レジデント	○	900	歯牙発生で減少した未解明遺伝子の発現・機能解析
若手研究(B)	天谷 哲也 講師	○	1,000	2波長発振レーザーは、齶蝕治療に有効か?
若手研究(B)	中澤妙衣子 助教	○	800	二酸化チタン含有漂白剤の漂白効果について
若手研究(B)	松永 智 助教	○	1,700	生体アパタイトの配向性をも考慮に入れた顎骨の高分解能・大規模有限要素解析
若手研究(B)	田坂 彰規 助教	○	700	咀嚼回数がストレス緩和効果に影響を及ぼすか?
若手研究(B)	武本 真治 講師	○	1,400	口腔内をシミュレートしたチタン合金の耐食性評価方法の確立
若手研究(B)	山本 信治 助教	○	1,600	口腔癌におけるマッピングアレイを用いた全染色体上の構造異常の解明
若手研究(B)	池田 千早 助教	○	1,400	口腔扁平上皮癌におけるアポトーシス阻害遺伝子survivinの発現について
若手研究(B)	衣松 高志 助教	○	1,000	接着分子応用による付着上皮接着機構制御
若手研究(B)	稲垣 覚 助教	○	700	複数菌種による歯周病原性バイオフィルム内における細菌間コミュニケーションの解明
若手研究(B)	丸山 澄 助教	○	1,700	法歯学的資料からのDNA多型による個人識別と人種推定のデータベースの作成
萌芽研究	吉成 正雄 教授		800	合成ペプチド修飾による感染防御システム・インプラントの創製
萌芽研究	小田 豊 教授	○	1,300	歯科用CAD/CAMから三次元造形への展開
合 計			65,000	

学内ニュース

■国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

○つくば歯科衛生・マイスター専門学校(学生33名、教員2名)

平成20年9月2日(火)解剖実習見学、病院見学

○東京歯科衛生専門学校(学生80名)

平成20年9月4日(木)解剖実習見学、病院見学

○茨城歯科専門学校(学生40名、教員2名)

平成20年9月24日(水)解剖学教室見学、病院見学

市川総合病院

○太陽歯科衛生士専門学校(教員2名)

平成20年8月11日(月)から22日(金)研修、見学

○市川市立第六中学校(生徒6名)

平成20年8月27日(水)職場体験学習

○佐伯栄養専門学校

平成20年8月16日(土)厨房、臨床検査科病理室見学(学生6名)

平成20年8月30日(土)厨房、臨床検査科病理室

見学(学生7名)

○龍ヶ崎済生会病院(職員4名)三橋建築設計事務所(職員1名)

平成20年8月21日(木)ICU設備見学

■海外出張

○篠崎尚史センター長(角膜センター)

第22回TTS国際移植学会総会で発表のため、平成20年8月8日(金)から15日(金)まで、オーストラリア・シドニーへ出張。

○井出吉信教授(解剖)

解剖学講座社会人大学院生研究指導のため、平成20年8月17日(日)から20日(水)まで、台湾・台北へ出張。

○町田幸雄名誉教授、佐藤 亨教授(学生部長)、小倉 等学生課長、吉田成彦学生係長(学生課)本学と延世大学校歯科大学との学生交流引率のため、平成20年8月18日(月)から22日(金)まで、

韓国・ソウルへ出張。

○柳澤孝彰教授、見明康雄准教授(口腔超微構造)
ベトナム・ホーチミン大学とハノイ大学での共同研究打合せ及び講演、歯牙硬組織研究手技の技術指導のため、8月18日(月)から23日(土)まで、ベトナム・ホーチミン、ハノイへ出張。

○櫻井 薫教授、竜 正大大学院生、中川兼佑大学院生、古池崇志大学院生(有床義歯補綴)
32nd Annual Congress of European Prosthodontic Associationに参加及び発表のため、平成20年9月1日(月)から8日(月)まで、ハンガリー・ペーチへ出張。

○田中一郎准教授(市病・形成外科)
第18回中日形成外科学会で発表のため、平成20年9月4日(木)から11日(木)まで、中国・西安へ出張。

○山田了教授、太田幹夫講師(歯周病)
84th American Academy of Periodontology Annual Meetingに出席のため、平成20年9月5日(金)から10日(水)まで、アメリカ・シアトルへ出張。

○山本信治助教、山本雅絵レジデント(口腔外科)
第19回欧州顎顔面外科学会で発表のため、平成20年9月7日(日)から13日(土)まで、イタリア・ボローニャへ出張。

○安藤暢敏教授、佐藤道夫准教授(市病・外科)
国際食道疾患会議(ISDE)第11回世界大会に出席のため、平成20年9月9日(火)から、安藤教授は16日(火)まで、佐藤准教授は14日(日)まで、ハンガリー・ブタペストへ出張。

○ビッセン弘子教授(水病・眼科)
European Society of Cataract and Refractive Surgeonsに出席のため、平成20年9月11日(木)から18日(木)まで、ドイツ・ベルリンへ出張。

○齋藤 淳講師(水病・総合歯科)
Vancouver Community College歯科衛生学科における特別講義及び、共同研究打合せのため、平成20年9月16日(火)から21日(日)まで、カナダ・バンクーバーへ出張。

○下野正基教授(病理)
FDI年次世界大会に出席のため、平成20年9月19日(金)から28日(日)まで、スウェーデン・ストックホルムへ出張。

○井上 孝教授(臨床検査)
FDI年次世界大会に出席のため、平成20年9月20

日(土)から27日(土)まで、スウェーデン・ストックホルムへ出張。

○内山健志教授(口腔外科)
5th International Cleft Lip and Palate Foundation Cleft 2008 ICPFで招待講演のため、平成20年9月21日(日)から28日(日)まで、アメリカ・テキサスへ出張。

○スルタン・ゼブ・カーン大学院生(臨床検査)
FDI Annual World Dental Congressに参加及び発表のため、平成20年9月21日(日)から29日(月)まで、スウェーデン・ストックホルムへ出張。

○澁川義幸講師(生理)
FDI Annual World Dental Congressで招待講演のため、平成20年9月23日(火)から28日(日)まで、スウェーデン・ストックホルムへ出張。

○野川 茂准教授(市病・内科)
第6回世界脳卒中学会に出席のため、平成20年9月23日(火)から29日(月)まで、オーストリア・ウィーンへ出張。

○柴原孝彦教授、野村武史講師(口腔外科)
北京大学口腔医学院視察のため、平成20年9月24日(水)から27日(土)まで、中国・北京へ出張。

○佐藤 亨教授、野本俊太郎助教(クラウンブリッジ補綴)
第3回国際接着歯学会及び日中歯科医学大会2008に参加のため、平成20年9月25日(木)から30日(火)まで、中国・西安へ出張。

○亀山敦史講師(保存修復)
第3回国際接着歯学会及び日中歯科医学大会2008に参加のため、平成20年9月25日(木)から29日(月)まで、中国・西安へ出張。

○金子 譲学長、薬師寺 仁副学長
北京大学との協定締結事前打ち合わせ及び、日中歯科医学大会2008に出席のため、平成20年9月26日(金)から30日(火)まで、中国・北京、西安へ出張。

○武田友孝准教授、中島一憲講師(スポーツ歯科)
日中歯科医学大会2008に参加及び発表のため、平成20年9月26日(金)から30日(火)まで、中国・西安へ出張。

○西井 康助教(歯科矯正)
1st World Implant Orthodontic Conferenceに出席のため及び、韓国Jeil社とのインプラントアンカー共同研究打合せのため、平成20年9月26日(金)

から28日(日)まで、韓国・ソウルへ出張。

○四宮敬史助教(薬理)

アメリカ国立衛生研究所との共同研究のため、平成20年9月26日(金)から、平成21年9月25日(金)まで、アメリカ・ベセスダへ出張。

○小田豊教授(歯科理工)

第44回ISO/TC106イエテポリ会議に日本SC議長並びに日本WG議長として出席のため、平成20年9月27日(土)から10月6日(月)まで、スウェーデン・イエテポリへ出張。

○橋本正次教授(法人類)

日中歯科医学大会2008に参加のため、平成20年9月27日(土)から、10月1日(水)まで、中国・西安へ出張。

○坂英樹講師、松永智助教、廣木愛実大学院生、中原賢大学院生(解剖)

日中歯科医学大会2008に参加及び発表のため、平成20年9月27日(土)から、坂講師、松永助教は10月1日(水)まで、廣木大学院生、中原大学院生は9月30日(火)まで、中国・西安へ出張。

○柳澤孝彰教授、見明康雄准教授(口腔超微構造)

日中歯科医学大会2008に参加のため、平成20年9月27日(土)から9月30日(火)まで、中国・西安へ出張。

○稲垣覚助教(微生物)

日中歯科医学大会2008に参加及び発表のため、平成20年9月27日(土)から9月30日(火)まで、中国・西安へ出張。

○川口充教授、澤木康平准教授、大久保みぎわ助教(薬理)

日中歯科医学大会2008に参加及び発表のため、平成20年9月27日(土)から9月30日(火)まで、中国・西安へ出張。

○吉成正雄教授(口腔科学研究センター・口腔インプラント学研究部門)

日中歯科医学大会2008に参加のため、平成20年9月27日(土)から9月30日(火)まで、中国・西安へ出張。

○武本真治講師(歯科理工)

日中歯科医学大会2008に参加のため、平成20年9月27日(土)から9月30日(火)まで、中国・西安へ出張。

○古賀寛助教(衛生)

日中歯科医学大会2008に参加及び発表のため、

平成20年9月27日(土)から9月30日(火)まで、中国・西安へ出張。

○山田了教授、太田幹夫講師、中西伸介臨床専門専修科生(歯周病)

日中歯科医学大会2008に参加及び発表のため、平成20年9月27日(土)から9月30日(火)まで、中国・西安へ出張。

○新谷誠康教授、今井裕樹講師、泉水祥江大学院生、福原郁子大学院生(小児歯科)

日中歯科医学大会2008に参加及び発表のため、平成20年9月27日(土)から9月30日(火)まで、中国・西安へ出張。

○中野洋子講師、菅原圭亮レジデント、田村直樹大学院生(口腔外科)

日中歯科医学大会2008に参加及び発表のため、平成20年9月27日(土)から9月30日(火)まで、中国・西安へ出張。

○笠原正貴講師(歯科麻酔)

日中歯科医学大会2008に参加及び発表のため、平成20年9月27日(土)から9月30日(火)まで、中国・西安へ出張。

○嶋村一郎准教授、田口裕美子大学院生(有床義歯補綴)

日中歯科医学大会2008に参加及び発表のため、平成20年9月27日(土)から9月30日(火)まで、中国・西安へ出張。

○末石研二教授、東郷聡司助教(歯科矯正)

日中歯科医学大会2008に参加及び発表のため、平成20年9月27日(土)から9月30日(火)まで、中国・西安へ出張。

○鏡明展大学院生、國分克寿大学院生、成瀬晋一大学院生(臨床検査)

日中歯科医学大会2008に参加及び発表のため、平成20年9月27日(土)から9月30日(火)まで、中国・西安へ出張。

○伊藤太一講師(口腔インプラント)

日中歯科医学大会2008に参加及び発表のため、平成20年9月27日(土)から9月30日(火)まで、中国・西安へ出張。

○大久保真衣助教(摂食・嚥下リハビリテーション、地域歯科診療支援科)

日中歯科医学大会2008に参加及び発表のため、平成20年9月27日(土)から9月30日(火)まで、中国・西安へ出張。

- 有坂岳大助教(市病・オーラルメディシン)
日中歯科医学大会2008に参加及び発表のため、平成20年9月27日(土)から9月30日(火)まで、中国・西安へ出張。
- 佐藤一助助教(口腔がんセンター)
日中歯科医学大会2008に参加及び発表のため、平成20年9月27日(土)から9月30日(火)まで、中国・西安へ出張。

- 辻野啓一郎講師(水病・小児歯科)
日中歯科医学大会2008に参加及び発表のため、平成20年9月27日(土)から9月30日(火)まで、中国・西安へ出張。
- 阿部伸一准教授(解剖)
台北医学大学口腔医学院において歯科インプラント学の講師をするため、平成20年9月30日(火)から10月2日(木)まで、台湾・台北へ出張。

大学日誌

平成20年8月

- 1(金) 第40回全日本歯科学生総合体育大会
〔事務主管 岩手医科大学歯学部〕(～12日)
省エネルギーの日・防災安全自主点検日
ICT委員会(市病)
- 2(土) 入試ガイダンス〔於：水道橋校舎〕
- 5(火) 看護部運営会議(市病)
- 6(水) リスクマネージメント部会
ICT会議
臨床研修作業部会(水病)
- 8(金) CPR+AED講習会(市病)
感染予防チーム委員会(水病)
- 11(月) 病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
医局長会
診療録管理委員会(市病)
- 13(水) リスクマネージメント部会(水病)
- 15(金) 環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
- 17(日) 平成21年度臨床研修歯科医選考
- 18(月) 延世大学校歯科大学との学生交流プログラム(延世大学へ訪韓～22日)
- 20(水) 機器等安全自主点検日
輸血療法委員会(市病)
- 21(木) 業務連絡会
高度・先進医療委員会
- 23(土) 入試ガイダンス・オープンキャンパス
〔於：千葉校舎〕
- 25(月) 医療連携委員会

- 26(火) 平成21年度第1回看護師採用選考試験
- 28(木) 歯科衛生士専門学校説明会
院内感染症予防対策委員会(市病)
- 31(日) 1～4年生夏期休暇終了

平成20年9月

- 1(月) 1・2・3・4年生授業再開
6年生第2回総合学力試験(～2日)
教務部(課)事務連絡会
薬剤治験審査委員会
歯科衛生士専門学校1・2年生授業再開
省エネルギーの日・防災安全自主点検日
電子カルテシステム(市病)
運用管理委員会(市病)
薬事委員会(市病)
- 2(火) 看護部運営会議(市病)
科長会(水病)
- 3(水) リスクマネージメント部会
ICT会議
輸血療法委員会
臨床検査部運営委員会
千葉校舎課長会
口腔がんセンター運営委員会(市病)
がんプロフェッショナル養成プラン運営委員会(市病)
防災訓練(市病)
口腔がんセンター会議(市病)
臨床検査運営委員会(市病)
ICU運営委員会(市病)
- 4(木) 大学院事務連絡会
- 5(金) ICT委員会(市病)

- | | |
|--|---|
| <p>6 (土) 平成21年度第2回看護師採用選考試験
(市病)</p> <p>8 (月) 病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会 (ICC)
臨床教育委員会
医局長会
医療安全研修会</p> <p>9 (火) 教養科目協議会
歯科衛生士専門学校臨床実習委員会
院内褥瘡対策委員会 (市病)</p> <p>10 (水) 基礎教授連絡会
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
第76回歯科医学教育セミナー
救急委員会 (市病)
麻薬製品取扱いについて (市病)
CPC (市病)
リスクマネジメント部会 (水病)
医療機器安全管理委員会 (水病)
薬事委員会 (水病)
臨床検査室委員会 (水病)
放射線委員会 (水病)
医薬品安全管理委員会 (水病)</p> <p>11 (木) 業務連絡会
第275回大学院セミナー</p> <p>12 (金) 1・2・3・4年生前期授業終了
歯科衛生士専門学校1・2年生前期授業
終了
CPR+AED講習会 (市病)
感染予防指導チーム委員会 (水病)</p> <p>15 (月) 歯科衛生士専門学校創立記念日</p> <p>16 (火) 臨床教授連絡会
全体教授会
人事委員会
食堂委員会
学生部 (課) 事務連絡会
歯科衛生士専門学校教員会
環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
看護部運営会議 (市病)</p> <p>17 (水) 図書委員会
情報システム管理委員会</p> | <p>17 (水) 第276回大学院セミナー</p> <p>18 (木) 1・3・4年生前期定期試験 (~29日)
千葉校舎課長会
高度・先進医療委員会
歯科衛生士専門学校1・2年生前期試験
(~30日)
部長会 (市病)
管理診療委員会 (市病)
診療録指導 (水病)
医療安全管理委員会 (水病)
感染予防対策委員会 (水病)
個人情報保護委員会 (水病)
口腔健康臨床科学講座会 (水病)</p> <p>19 (金) 2年生前期定期試験 (~26日)</p> <p>20 (土) ピアノコンサート (市病)</p> <p>22 (月) 医療連携委員会
機器等安全自主点検日
水道橋病院教職員研修会 (水病)</p> <p>24 (水) 病院連絡協議会 (水病)
診療録管理委員会 (水病)
サービス向上委員会 (水病)</p> <p>25 (木) 院内感染症予防対策委員会 (市病)</p> <p>26 (金) 歯科衛生士専門学校3年生前期試験
クリティカルパス委員会 (市病)
社保委員会 (水病)</p> <p>27 (土) 平成21年度第3回看護師採用試験</p> <p>29 (月) 解剖慰霊祭 (水道橋校舎)
給食委員会</p> <p>30 (火) 薬事委員会
データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会
麻薬製品取扱いについて (市病)</p> |
|--|---|

平成21年度東京歯科大学入学試験要項

推薦入学（一般公募制）

募集人員 約45名（指定校制推薦を含む）
（全募集人員128名中）

（趣旨）

人物・学力ともに優秀で、歯科医療担当者としての能力・適性について高等学校長が責任をもって推薦するもので、本大学への入学を強く希望する者に対し、本大学の選考方法によって入学を許可するものである。

（出願資格）

次の各条件を満たし、かつ高等学校長が責任をもって推薦する者。

1. 平成20年3月高等学校卒業生および平成21年3月高等学校卒業見込の者。
2. 人物・性格ともに優れ、健康である者。
3. 入学を許可された場合、必ず本大学に入学することを確約できる者。

選考内容

- a 小論文
- s 小テスト〔外国語（英語）、数学、理科（物理・化学・生物から1科目選択）〕
- d 面接

出願期間

平成20年11月1日（土）から平成20年11月5日（水）
（期間内必着のこと）

選考日・選考会場

選考日 平成20年11月8日（土）
選考会場 東京歯科大学 千葉校舎
千葉市美浜区真砂1丁目2番2号

合格通知発送日

平成20年11月11日（火）

入学手続

平成20年11月13日（木）から平成20年11月28日（金）正午まで

帰国子女・留学生特別選抜

募集人員 若干名（全募集人員128名中）
（趣旨）

帰国子女および日本に留学しようとする外国籍を有する外国人で、本大学において歯科医学教育を受けることを強く希望する者に対し、本大学の選考方法によって入学を許可するものである。

（出願資格）

次の各項のいずれかに該当する資格を有し、入学を許可された場合、日本語での授業を理解できる者。

1. 外国において、平成19年4月から平成21年3月までに学校教育における12年の課程を修了した者および修了見込の者またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
2. スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で、平成21年3月31日に18歳または19歳の者。
3. ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で、平成21年3月31日に18歳または19歳の者。
4. フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で、平成21年3月31日に18歳または19歳の者。

選考内容

次の試験を日本語で行う。

- a 小論文
- s 小テスト〔外国語（英語）、数学、理科（物理・化学・生物から1科目選択）〕
- d 面接

出願期間

平成20年11月1日（土）から平成20年11月5日（水）
（期間内必着のこと）

選考日・選考会場

選考日 平成20年11月8日（土）
選考会場 東京歯科大学 千葉校舎
千葉市美浜区真砂1丁目2番2号

合格通知発送日

平成20年11月11日(火)

入学手続

平成20年11月13日(木)から平成20年11月28日(金)正午まで

学士編入学

募集人員 若干名(編入年次)
第2学年4月に編入

(出願資格)

4年制大学を卒業した者および平成21年3月卒業見込みの者

試験内容

a 小論文・小テスト(英語を含む総合試験)
s 面接

出願期間

平成20年11月1日(土)から平成20年11月5日(水)
(期間内必着のこと)

試験日・試験会場

試験日 平成20年11月8日(土)
試験会場 東京歯科大学 千葉校舎
千葉市美浜区真砂1丁目2番2号

合格通知発送日

平成20年11月11日(火)

入学手続

平成20年11月13日(木)から平成20年11月28日(金)正午まで

一般入試(I期)

募集人員 約50名(全募集人員128名中)

試験内容

a 学力試験
外国語(英語:英I、英II、リーディング、ライティング、およびオーラルコミュニケーションI、IIに共通な事項。ただし、実際に音声を使ったリスニングテストは行わない。)
数 学(数学:数I、数II、数A、数B。なお、数Bは[数列]と[ベクトル]を出題範囲とする。)

理 科(物理、化学、生物の3科目のうち1科目を試験場で選択する。なお、出題範囲は下記のとおりとする。)

- ・物理:物I、物II[ただし、学習指導要領に示された物理IIのうち以下のものを除く「(3)物質と原子」の「イ原子、電子と物質の性質」、「(4)原子と原子核」]
- ・化学:化I、化II
- ・生物:生I、生II[ただし、学習指導要領に示された生物IIのうち以下のものを除く「(3)生物の集団」]

s 小論文
d 面接

※大学入試センター利用試験(I期)を併願する者は、一般入試(I期)の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験(I期)の「小論文」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成20年12月4日(木)から平成21年1月27日(火)
(郵送の場合、必着)
(平成20年12月26日(金)から平成21年1月4日(日)の間は窓口での受付は行わない。)

試験日・試験会場

試験日 平成21年2月2日(月)
試験会場 ○千葉会場
東京歯科大学 千葉校舎
千葉市美浜区真砂1丁目2番2号
○大阪会場
天満研修センター
大阪市北区錦町2丁目21番

合格発表日

平成21年2月5日(木)午後4時

入学手続

1. 入学金
平成21年2月6日(金)から平成21年2月17日(火)正午まで
2. その他の諸経費
平成21年2月6日(金)から平成21年2月23日(月)正午まで

大学入試センター利用試験 (I期)**募集人員** 20名 (全募集人員128名中)

(出願資格)

大学入試センター試験を受験した者で、本学が利用する教科・科目を解答した者。

試験内容

- a 大学入試センター試験を受験する際、次の科目を受験しておくこと。

外国語「英語」

数 学「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」の2科目

理 科「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」から2科目

※理科について、3科目を受験した場合は、高得点の科目から2科目を合否判定に使用する。

s 小論文

d 面接

※一般入試 (I期) を併願する者は、一般入試 (I期) の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験 (I期) の「小論文」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成20年12月4日 (木) から平成21年1月27日 (火)
(郵送の場合、必着)

(平成20年12月26日 (金) から平成21年1月4日 (日)の間は窓口での受付は行わない。)

試験日・試験会場

試験日 平成21年2月2日 (月)

試験会場 ○千葉会場

東京歯科大学 千葉校舎

千葉市美浜区真砂1丁目2番2号

○大阪会場

天満研修センター

大阪市北区錦町2丁目21番

合格発表日

平成21年2月10日 (火)

入学手続

1. 入学金

平成21年2月12日 (木) から平成21年2月17日 (火) 正午まで

2. その他の諸経費

平成21年2月12日 (木) から平成21年2月23日 (月) 正午まで

一般入試 (II期)**募集人員** 約10名 (全募集人員128名中)**試験内容**

- a 学力試験 (出題範囲はI期と同じとする。)

外国語 (英語)、数学、理科 (物理・化学・生物のうち1科目を選択)

s 小論文

d 面接

※大学入試センター利用試験 (II期) を併願する者は、一般入試 (II期) の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験 (II期) の「小論文」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成21年2月23日 (月) から平成21年3月11日 (水)
(郵送の場合、必着)

試験日・試験会場

試験日 平成21年3月14日 (土)

試験会場 ○千葉会場

東京歯科大学 水道橋校舎

千代田区三崎町2丁目9番18号

合格発表日

平成21年3月17日 (火)

入学手続

平成21年3月18日 (水) から平成21年3月24日 (火) 正午まで

学納金 全入試制度共通

入 学 金 600,000円 (入学時のみ)

授 業 料 3,500,000円

歯学教育充実費 4,300,000円 (入学時のみ)

施設維持費 1,000,000円

合 計 9,400,000円

大学入試センター利用試験（Ⅱ期）

募集人員 5名（全募集人員128名中）

（出願資格）

大学入試センター試験を受験した者で、本学が利用する教科・科目を解答した者。

試験内容

a 大学入試センター試験を受験する際、次の科目を受験しておくこと。

外国語「英語」

数 学「数学Ⅰ・数学A」、「数学Ⅱ・数学B」の2科目

理 科「物理Ⅰ」、「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」から1科目

※理科について、2科目以上を受験した場合は、高得点の科目を合否判定に使用する。

s 小論文

d 面 接

※一般入試（Ⅱ期）を併願する者は、一般入試（Ⅱ期）の「小論文」「面接」試験の受験をもって大学入試センター利用試験（Ⅱ期）の「小論文」「面接」試験にかえる。

出願期間

平成21年2月23日（月）から平成21年3月11日（水）
（郵送の場合、必着）

試験日・試験会場

試 験 日 平成21年3月14日（土）

試験会場 東京歯科大学 水道橋校舎

千代田区三崎町2丁目9番18号

合格発表日

平成21年3月17日（火）

入学手続

平成21年3月18日（水）から平成21年3月24日（火）正午まで

平成21年度東京歯科大学大学院歯学研究科（博士課程） 学 生 募 集 要 項

○ 募 集 人 員 歯学専攻34名（社会人特別選抜（若干名）、口腔がん専門医養成コースを含む）

○ 入学願書受付期間

第Ⅰ期 平成20年10月1日（水）～平成20年11月21日（金）まで

第Ⅱ期 平成20年12月1日（月）～平成21年2月13日（金）まで

○ 試 験 科 目

一 般 1) 外国語（英語：辞書（電子辞書）の持込み可）

2) 専攻主科目試験および面接

社会人 1) 外国語（英語：辞書（電子辞書）の持込み可）

2) 口頭試問（面接）（提出書類の審査によって社会人としての業務歴または研究内容、基礎学力の評価を総合的に判断し選考する）

3) 専攻主科目試験および面接

※社会人選抜については、原則として基礎系講座・研究室のみを志望できる

○ 選考日・選考会場

第Ⅰ期 平成20年11月29日（土）東京歯科大学 千葉校舎

第Ⅱ期 平成21年2月21日（土）東京歯科大学 千葉校舎

○ 合格者発表

第Ⅰ期 平成20年12月5日（金）正午 千葉校舎教務課前掲示板

第Ⅱ期 平成21年2月27日（金）正午 千葉校舎教務課前掲示板

○学 費

入 学 金 300,000円

授 業 料 600,000円

学 生 会 費 2,000円

施設維持費 100,000円（入学当初のみ）ただし、本学を卒業した者からは徴収しない。

※受験資格（一般）

1) 歯科大学または大学歯学部を卒業した者。

平成18年4月以降に歯科医師免許を取得した（する）者は、原則として1年以上の歯科医師臨床研修を修了していること。

2) 1) と同等以上の学力があると認められた者。

3) 医科大学または大学医学部を卒業した者。（ただし、この場合歯科理工学講座を除いた基礎系講座・研究室のみを志望できる。）

※受験資格（社会人）

開業医、大学、研究所の勤務医・教員・研究者等として原則2年以上の経験を有し、入学後もその身分を有する者で、以下の資格を満たしている者。

1) 歯科大学または大学歯学部を卒業した者。

2) 1) と同等以上の学力があると認められた者。

3) 医科大学または大学医学部を卒業した者。（ただし、この場合歯科理工学講座を除いた基礎系講座・研究室のみを志望できる。）

東京歯科大学広報 編集委員

内山健志（委員長）

浦田知明 江波戸達也 王子田 啓 金安純一 河田英司 坂本智子 椎名 裕 柴家嘉明 新谷益朗
高木直人 田口達夫 野島靖彦 伴 英一郎 橋本貞充 三木敦史 米津博文（平成20年9月現在）

編集後記

新理事長の熱田俊之助先生は、本学教授懇親会の席で、大学総力をもって事を成すことを仰っておりました。この総力とは、大学のいかなる職位の人も、男性も女性もということであると存じます。

さて東京の代表的な名所といえば、写真のごとく江戸城だと思えます。明治元年には東京城、遷都してからは皇城、明治時代中期から終戦直後までは宮城と称されておりました。現在は、日本国民統合の象徴である今上天皇のお住まいで、皇居と改称されていますが、ここでは幕末に視点を向けてみます。

最後の将軍である徳川慶喜が大政を奉還したあと、王政復古の錦の御旗のもと鳥羽・伏見の戦いで、幕府軍を破った薩長を中心とした討幕軍が、西から江戸城総攻撃にむけてひたひたと迫ってきます。火蓋が切られる直前、江戸薩摩藩邸において幕府方の勝海舟と倒幕方の西郷隆盛の話し合いがもたれました。その結果、江戸の町が火の海になることもなく、また江戸城が大砲によって崩落することもなく無血の明け渡しとなります。我々はそのことを歴史のひとつとして学んできました。しかし、一生の覚悟を決め、徳川のために命を懸け、全うした一人の女性の存在と行動がこれに影響を及ぼしたのは、紛れもないことであります。

薩摩の島津家から13代将軍家定の正室となった篤姫です。このときすでに髪を下ろし天璋院と呼ばれており、大奥を束ねるだけでなく、表の政務にもかかわっておりました。勝は直参で天璋院の今の家来、西郷は敬愛した殿様が篤姫の父君の島津斉彬であり、輿入れの際の総責任者で前の家来でした。

歴史というものが古今東西、勝者の、しかも男の歴史であったことは、historyはあってもherstoryという単語がないことから明らかです。天璋院篤姫の潔い、凜としたstoryは快挙というより、なんとという美しい話ではないでしょうか。

（広報・公開講座部長：内山健志）



皇居（江戸城）桜田門